

# 東海道名所圖會

三

和書門		
八七六號	八七六號	八七六號
一八七函	一八七函	一八七函
二架	二架	二架
六册	六册	六册

和書		
八七六號	八七六號	八七六號
一八七函	一八七函	一八七函
二架	二架	二架
六册	六册	六册

内閣文庫	
番號	和 8876
冊數	6 ( 3 )
函號	172 270



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

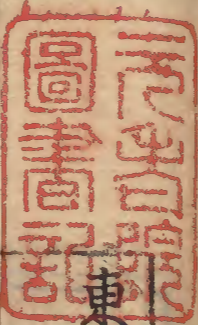
Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak



綴じ部(喉部分)の文字など開きが不鮮明な箇所あり



東海道名所圖會卷之三

目錄

○宮

勅使殿

遠坂

古渡

一宮居

二宮居

雙田太神宮

神樂所

神樂所

神樂所

神樂所

神樂所

鎮皇山

春殿

先右樂所

神樂所

神樂所

神樂所

神樂所

神樂所

神樂所

神樂所

神樂所

雲見山

旗井

王井

神樂所

神樂所

神樂所

神樂所

神樂所

神樂所

神樂所

神樂所

葛蒲池

井樓

八鏡神社

高藏神社

高藏神社

高藏神社

高藏神社

高藏神社

高藏神社

高藏神社

高藏神社

土用殿

氷上神社

氷上神社

氷上神社

氷上神社

氷上神社

氷上神社

氷上神社

氷上神社

氷上神社

氷上神社

日破神社

孫名神社

孫名神社

孫名神社

孫名神社

孫名神社

孫名神社

孫名神社

孫名神社

孫名神社

孫名神社

紀伊神社

寶田神社

寶田神社

寶田神社

寶田神社

寶田神社

寶田神社

寶田神社

寶田神社

寶田神社

寶田神社

乙子洞

今宮

今宮

今宮

今宮

今宮

今宮

今宮

今宮

今宮

今宮

一所赤洞

土神洞

土神洞

土神洞

土神洞

土神洞

土神洞

土神洞

土神洞

土神洞

土神洞

御井洞

姉子洞

姉子洞

姉子洞

姉子洞

姉子洞

姉子洞

姉子洞

姉子洞

姉子洞

姉子洞

外天神洞

白衾洞

白衾洞

白衾洞

白衾洞

白衾洞

白衾洞

白衾洞

白衾洞

白衾洞

白衾洞

天岩戸事相

松風洞

松風洞

松風洞

松風洞

松風洞

松風洞

松風洞

松風洞

松風洞

松風洞

寢覺里

松風里

松風里

松風里

松風里

松風里

松風里

松風里

松風里

松風里

松風里



青衣神社

青衣神社

青衣神社

青衣神社

青衣神社

青衣神社

青衣神社

青衣神社

青衣神社

青衣神社

青衣神社

乙子洞

今宮

今宮

今宮

今宮

今宮

今宮

今宮

今宮

今宮

今宮

一所赤洞

土神洞

土神洞

土神洞

土神洞

土神洞

土神洞

土神洞

土神洞

土神洞

土神洞

御井洞

姉子洞

姉子洞

姉子洞

姉子洞

姉子洞

姉子洞

姉子洞

姉子洞

姉子洞

姉子洞

外天神洞

白衾洞

白衾洞

白衾洞

白衾洞

白衾洞

白衾洞

白衾洞

白衾洞

白衾洞

白衾洞

天岩戸事相

松風洞

松風洞

松風洞

松風洞

松風洞

松風洞

松風洞

松風洞

松風洞

松風洞

寢覺里

松風里

松風里

松風里

松風里

松風里

松風里

松風里

松風里

松風里

松風里

藤原師長公配所

櫻田

笠寺

星寄

○鳴海

鳴海上聖

鳴海寺

鳴海神社

芭蕉翁千鳥家

同族文庫

衣井浦

音聞山

名産有松絞

今川義元塚

堀川

○沈鯉鮒

知立神社

多宝塔  
除蝮蛇神札

末社  
神寶古形面

石橋  
芭蕉翁的場

沈裡謝馬市

八橋古蹟

橋雲寺

無量寺

狹投神社

矢剱宿

淨瑠璃塚墳

矢剱川

尖橋橋

○岡寄

大樹寺

大屋川

小豆阪

二村山

衣乃里

藤川

山中里

宮地山

法藏寺

赤阪

○御油

本坂城

二見道

御津神社

免足神社

山本勘次故居

砥鹿神社

○吉田

豊川

牛頭天王

放花炮

煙巖山

鳳來寺

本堂  
三層塔  
鐘樓  
毘沙門天

御守権現

護法神

常行堂

天神祠

一王子  
名跡題石

八幡宮

伊勢兩宮

辨財天

泥行

行者歸  
猿橋

八王子

荒神祠

人師堂

牛鼻

石卷神社

窟觀音

○二川

塚川

猿馬場

白須賀

白菅凌

汐見坂

富士見松

高師山

橋本

女谷

風爐井

角避彦神社

紅葉寺

濱名川

濱名橋蹟

○荒井

猪鼻湖神社

源太山

濱名湖

今切

館山寺

引馬野

舞阪

馬郡觀音

音羽松

若林二堂

賀茂祠

鴨江寺

○濱

引馬野

諏訪社

五社明神

三方原

犀ヶ崖

大安寺

龍禪寺

颯々松



宮驛  
 濱多居

東海道名所圖會卷之二目錄 終

頭陀寺

植松原

京江戸行經同里

天竜川

熊野墓

中象

朝顔

見附

今之浦

袋井

熊登祠

志呂波儀

腹川青川

蒲神明

沈田名

八幡宮

三香登橋

妙星寺

茅場

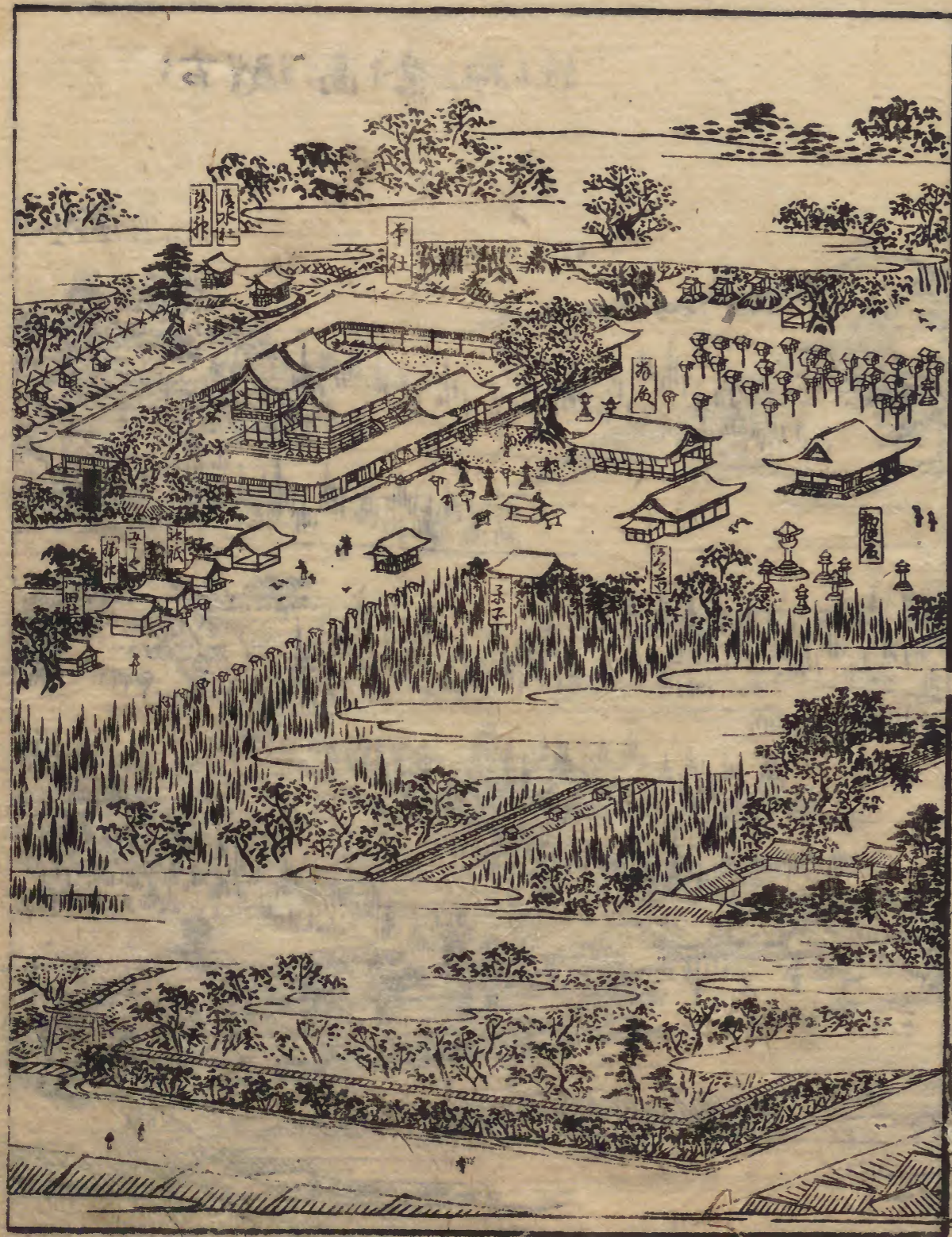
熊野古蹟

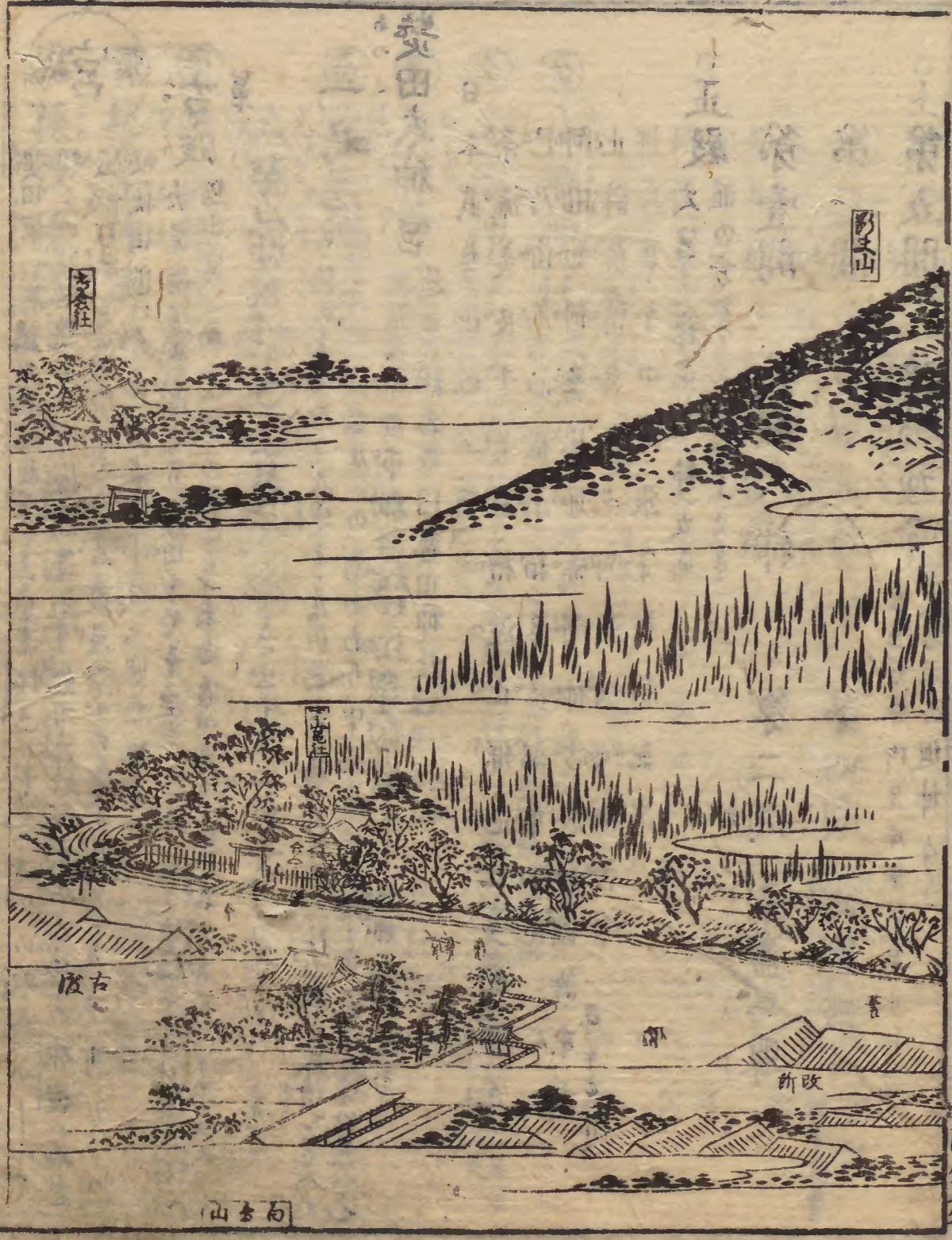
櫻池

金札鶴

名産花菱







張宮

張宮の畧記... 熱田宮の畧記... 領主の監船所あり同海莊等あり熱田宮は侯者居高檜の神燈ハ海上... 古渡 依屋海道岩崎より熱田まで里半あり古渡といふ地名あり... 熱田宮と云く宮の懸より東海道に至る左の古宮と云て本宮街乃し

一鳥居

古渡の南より八境を居の其一高廿五尺柱の圓き又檜とりて... 延喜式神名帳曰熱田神社大

日本武尊御歌二首 禮波止保志比多加知尔 阿由乃由美良平美必和禮波止保志比多加知尔 許佐何多比加阿波相記出 古平許牟止

正殿

大宮より移り祭神五座 西の方張より座とす

第壹間

天照大神 第二間 素盞烏尊

第二間

日本武尊 第四間 宮簀媛命 皇妃

第五間

建稻種命 大宮司の御神あり

土用殿

正殿の東北方より寶鏡 神躰草薙寶劍 日本紀曰素盞烏尊乃以蛇韓 天少欽故裂尾而肴即別有劍焉名為草薙 劍此劍昔在素盞烏尊許今在尾張國也 同紀曰景行天皇五十年秋八月日本武尊 所佩草薙橫乃是今在尾張國年魚市郡熱田 社也

別宮攝社 式内云延喜式神名帳出 八劍神社 大宮の南を町許西の方南向小鎮坐祭神十座 東の方張より座とす神躰神祕 高藏神社 大宮より北の方五町許細村より神名帳云高座船御子神社大 祭神仲哀天皇 所新前町小あり神名帳云日割御子神社大 祭神三座饒速日尊 稻依別命 手栗彦命 當國知多郡大高郷より神名帳云愛知郡火上御子神社 祭神一柱日本武尊 宮簀媛命 所新前町日本武尊 宮簀媛命 祭神正哉吾勝尊 傳馬町小あり神名帳云上知我麻神社 祭神尾張國十一世平止世命 社内と雖子太思の社あり 大宮西面鎮白門の心あり神名帳云下知我麻神社 祭神眞敷刀媛命 所の休名と旗綾といふ 鎮皇門の内よりあり 神名帳云孫若御子神社 祭神瓊々杵尊

- 源若夫神社 紀若夫神社 孫若神社



寶田神社 同所あり神名帳云御田神社 祭神保食命 權座靈命

南新宮 大福田社の少あり祭神天照右神 素盞烏尊 側小殿盛弥五命祠あり

青衾神社 南面石高橋北東あり神名帳云青衾神社 社の後よ名泉あり

鈴御前社 傳馬町小あり 祭神天御女命

末社 右八百萬神祠。編者祠。王若祠。赫祠。後間祠。楠所前祠。 乙子祠。今宮。已上大宮の処の方よりあり

左八百萬神祠。二名新宮。賀茂祠。龍田祠。内天神祠。已上の 大宮の東の方よりあり

一之河原祠。土神祠。山神祠。自神祠。金神祠。龍神祠。 傍水祠。河井祠。已上の大宮の後よりあり

姉子祠。今光祠。水向祠。素盞鳥祠。日長祠。已上の海蔵門 の外神幸道小あり

山王祠。姉子祠。今若祠。水向祠。素盞鳥祠。日長祠。已上の 海蔵門の外東例小あり

外天神祠。德皇門の外よりあり。白衾祠。新水止祠。天岩戸事相の 大宮の神三丁前小あり。松垢祠。布曝女町小あり

其外末社所小あり。畧之 駒や老くまみくろん小早振名あり此社の下法 泰謙雅経

十六夜日記 廿日尾張國おのりくももまるとりよにねるれはありこれ

宮へまのりて祝らりて書はもくも

祈り哉よかおとくは海さひくはくは神の徳に 光り記り 尾張の國寶田のまのりて神廻れありちうけをまぐまりて拜

なるふ本まき一廻りまを森の本に乃より名目ひまぐりて

風ふれれらるるからおまふれく神まびらるるまをあらむれ

救もろく本末まきまをまのりてはまをまふんくまか一白まら

書ひまにまのりまのりてまをますくまのまのりてまをま

尊を初し出まの國小宮儀り有たり八雲たのりて大和言ま

是よりまのりまのりて其後景行天自其時代まのりてまのり

のりてまのりまのりて其後景行天自其時代まのりてまのり

日本武尊とて夷とたのりて啼りぬる附寶田小のあり結ふと

一條院其時大江正平といふ侍士ありなり長保の末ふあて當國は

わりたりなるふ大般若とまぐり此宮少て依書とこげりなる

願文に吾願まことふみちぬ任限又ちちたなり古々八尋らんとするが  
しるすくさくさるるびと書るるすめあそれよああ何とく安けれ

あひおもくさくさるるびと書るるすめあそれよああ何とく安けれ

古語拾遺云草薙神劍者心是大聖自日本武尊  
體旋之年留尾張國熱田社外賊偷逃不能  
出境神物靈驗以此可觀然則奉幣之日可同  
致敬而久代關如小俗其禮所遺一也村私云  
元集云草薙劍此今在尾張國吾湯市也  
今愛知郡是即熱田稅部所掌之神是也  
東鑑曰建久元年十月右武衛親朝上洛之時同  
祖神殊被致齊令奉幣熱田社當社依為外戚  
神皇正統紀云

日本武尊と信濃より尾張へ出たの國宮實媛と云女は尾張の  
稻種いぬいの宿禰すくねの妹いもうとの女とありて淹留ひざりのひい一あいに八十菅いふさは出  
荒神あらしの里と安やす半はん多たは劍つるぎとは宮實媛乃弟いひふさ老お徒たよりして  
まて山神化やまのかみして小蛇こへびとなりて河道かみち小横こよこたりたり尊みこと又またまてはひいふ  
山神毒氣やまのかみどくけを吐はたる小御こみこをえされたり伊勢いせよりつりぬる能よ能よ

野のと云いわけて神病かみぢをまひとくぬれぬれば武彦むぢ命のみこととて天皇てんかうふ  
奉ほうれよと奏そうして終つひふくれぬひぬ神年かみとし二十にじゅうなり天皇てんかう三さんま一いつとて  
悲かなしこのふ事ことに限かぎり群ぐん々々百寮ひやくりやくふおほせて伊勢いせ國くに能よ能よ登のぼりおたさち  
なられし小白しろはくとなりて大倭やまと國くににたてて彈琴たんきん原はら小留こまれり其そのふ  
又また陵みづみと能よ能よちられぬる又また能よ能よくは内うちの古市ふるいちにまゐる其そのふ陵みづみと定さだまれ  
しうぐど又また能よ能よく天あまふ登のぼりぬ能よ能よるこの陵みづみありぬ草薙くさぢの劍つるぎは宮實みやじ  
媛ひめわが兒こなり尾張おわりふとままりぬ  
足利あしき義教よしかう公こう富士ふじ見み下向げかうの時とき釋しやく堯やう孝かう記きの  
熱田あつたの宮みや乃の神かみふまうて河道かみちまがら神祈かみいのをなせり侍さむらひりといひ  
日本武尊よめむすむ東夷とうい征伐せいばつはるふあめさうひは能よ能よひ耐たり道みち  
伊勢いせ大おほ神宮かみみやふして大和やまと能よ能よ命のみことに備ひりぬひいふ命のみことはうけぬひい  
志し劍つるぎもは神かみ殿どの小止こどりせおちりまひいといひとゆんこころを奉ほう神明かみ  
鎮護ちんご國家こくがはちうひもまのりくおゆえ侍さむらひり  
あかちれぬるあつては能よ能よる様さまのゆきと 堯やう孝かう

あつま聖の系業を承りて秋のあつて考はけをもちりて

志のたれ老をぬらざり有といひらふや遂が終りたりせん 回

たれ當社ハ人皇十二代の帝景行天皇代時より所鎮座しつて後

天智天皇の御宇故有る皇都遷りたる十九年迄して天武天皇朱鳥

元年小再びとせ所遷座しつて其砌ハ勅使例祭小立りて官幣と奉らせ

の事其銘風今ふあり中古奉幣使怠りたること三部廣成されと嘆て古語拾

遺小書より先社頭の歳多る事ハ八境小集は居大宮八叙神社源をま乃

社と初め按社末社に叙く石は高橋下馬のち石南面の門を海蔵門といひ

神幸道ハ内門の不實梅肉の天神祠あり里表ハ小者庵の玄宗皇帝昔

餘州と治先ハ日本公取んとて計ゆふと當社の神事よりして後小楊貴妃

と現れ世と乱りしを日本とさる事叶りて貴妃ハ馬嵬が系と高力士

が為小空一くるをせらるる玄室別れとあり方士楊通幽といふ者ハ四方つる

してそ魂魄と尋られし日本茶葉山小むらまはとて當社ハ乃末り

しといふ則は因天神と小楊貴妃ハ靈公衆とてをいふ事古く世人ハ不膾炙を

社説より聞えたり然れと仙傳拾遺と引く曉風集もいふ事と載り

又東海瓊華集より秦代徐市始皇の詔を奉て不灰芥菜を求んて日本渡り

熱田神祠に於て茶葉宮と記し壹和信正熱田に平不獨福と聞て詔を奉て

維摩會ハ講師と依惟蓮沙門ハ亡母骨と高野山小藏をんて東國より登りて

神祠小立考る神人灰骨の汚穢と忌て宿昔ハ漸門外小草夜ハ其夜神宮小爰

其宮ありて神勅小従ハ惟蓮と珍琴とこれ至孝と神明ハ賞卜りたるん又新

羅國の沙門道行ハ草薙ハ寶劍の靈威と聞て神殿ハ入續經一百日一為く

竊小寶劍ハ盜取の僧伽梨小褻と携持して筑紫小至り本國小歸る時

忽小海風暴起して浪に漂ひ去る事公將と俄に黒雲一帯して劍を奪て

元の如く神祠小藏む又治承の比ハ大政大臣原師長公平相圍れ為すい

さきよりハ小時當宮小治り琵琶小彈りしを明神感應りて寶殿

震動りりし事平家物語にも載りし事ハ靈威應驗奉て負て之

少くは兩神殿に於て渡殿釣殿祭文殿回廊拜殿勅使殿透塙石の  
樂所神樂所神樂舎神庫橋部屋社頭小石大燈燭あり銘曰  
發田太神宮神寶前奉奇進石燈籠寛永七庚午稔正月伍之間大膳  
亮平勝之と鐫其高式文飾蓋の巨五尺許 系師東山南禪詩小同銘の  
大燈燭ありあれ小一雙の大器也  
西小鎮白門東小春敵門外の御厩の櫛飼の神馬狐繫あり 神馬の尾賜度  
う献せり  
其外政所御饗殿太茶師堂の當社に神宮寺 本尊小茶師研安堂  
發田神の本坊也  
側小不効堂あり 八綴の神也  
至比也 又其側小愛染堂あり大宮の後に雲見山と  
いふ所に御所の法あり玉井里に古跡小玉井井ありをわたりに松岡獨あり  
乾の方小鷲堂山あり 土人斷ま山  
是蓋茶山に舊蹟也 和奇に松山といふ  
宗抵乃方角抄をいへり也小不効御前の中後あり西の方小白鳥山あり  
され日本武尊の陵に菅浦比の旗綾町あり浦冠者範頼に延れる所也  
故小浦比あり頼朝の御出陣の御母の熱田の大宮司の女と  
諸書よるに御所小中村森法門宗法弟の趾洞の延東門外よる

本松あり高藏社の側小鉾取洞水神洞新宮ありけ社頭石と携く旅  
立ち小恙多一ぬ路の倍して一なる風俗に柿高社と熱田と跡ある事  
い草薙寶劍と乘れ枝小恙並あり熱々光あり側の杉の梢小光燃上り  
其下此田小焼倒れ田も熱りるれ社の名小吸も又御神像小  
玉葉  
桜花ありあんのあけか見えぬ松小のける友をそのまゝ  
あれ熱田大御神に御言をん毒一の社の大宮司尾張姓代々あり本を  
多小尾張貞職の女の名と松とりの藤系季兼小志くくあり  
季範歌あり多後大神かく託宣せさ勢のいなるあり季範初て大宮  
司小成其末今小たえむとあん玉葉集あしんりさむむりも今も示現利  
生れ垂迹小志まのこて一心再神に傳務小頭と傾くれ春の花れ白ひ  
鮮なるごとく秋の月れ清風小澄り了り於の香神樂に身傍人の後晴を  
あつるに間断あり神燈の社の陰小輝る四時の後祭息らば是みる  
平天下に御務嚴ありて東海を山道第一の靈社とをのれり



正月十一日  
踏歌神事

浪花春泉齋画

蕪田宮年中祭事

○正月元旦丑剋

大宮 八劔宮 大宮司奉幣

○同日朝

内院供饗 八劔宮小幡にて先て大宮に至る内院外院の供饗毎年の如く

供饗御進の中へ吉樂あり祝師祝詞有て初女神樂弘奏以吉樂祝詞神樂

○同日未剋

外院供饗 八劔宮よりはたき大宮に至り終りて同日神事 故実の

○同日晚

上千籠神社小幡あり 八劔宮の行ひ 三日晩まのま

○四日晩

日割宮の行ひ 五日晩 南新宮の行ひ これ八社の行ひと云其儀法

○二日朝

外院供饗 大宮共の例の如く 持て先酒飯と傳へ後祝あり

○五日朝

外院供饗 上千籠神の宮作ら初市の遺風あり寅の味く社中まの事

○同日晚

外院供饗 大宮正殿の下小埋と云く今ハ懸け持来り分本

○七日朝

外院供饗 七持の御粥 入て堅く封ト大宮正殿の下小埋と云く今ハ懸け持来り分本

○十日派剋

踏歌神事 大福田社より路を政所 大宮 八劔宮 文次福田社

○十一日朝

歩射的 六人の射の丸の大的と射る大宮司祝師三老等出仕

○十二日

歩射裁 六人の射の丸的の射る三子はく三十六

○十五日朝

外院供饗 海蔵門の前まで行ふ

○同日午剋

歩射的 六人の射の丸の大的と射る大宮司祝師三老等出仕

○九日

兩宮歩射會 社中會合して明幸の神後と定め飲酒の礼と

○二月初巳午未日

祈年祭 初巳日夜亥剋大宮大供所左右ふ條と云て棚と懸、東西

○同午日未剋

高藏宮 日割宮 大福田宮 氷上宮 保老之神

○同夜酉剋

八劔宮大供所 翌日撤之

○同日未剋

八劔宮大供所 翌日撤之

御田神社 櫻田神社 御田神社 櫻田神社  
 二月 初末日 十二月 初末日  
 鳥喰の 神事



香泉画

○二月初未日午魁

御田神社供御 鳥喰

鳥喰の神事 俗に鳥喰上りといふは神事なりとて  
 鳥喰の神事 俗に鳥喰上りといふは神事なりとて  
 鳥喰の神事 俗に鳥喰上りといふは神事なりとて  
 鳥喰の神事 俗に鳥喰上りといふは神事なりとて

○三月一日朝

八劔宮内院供御 草餅 桃衣神酒

○同 三日朝

大宮内院供御 草餅 桃衣神酒

○四月八日 神事

外院供御 兩宮例の水

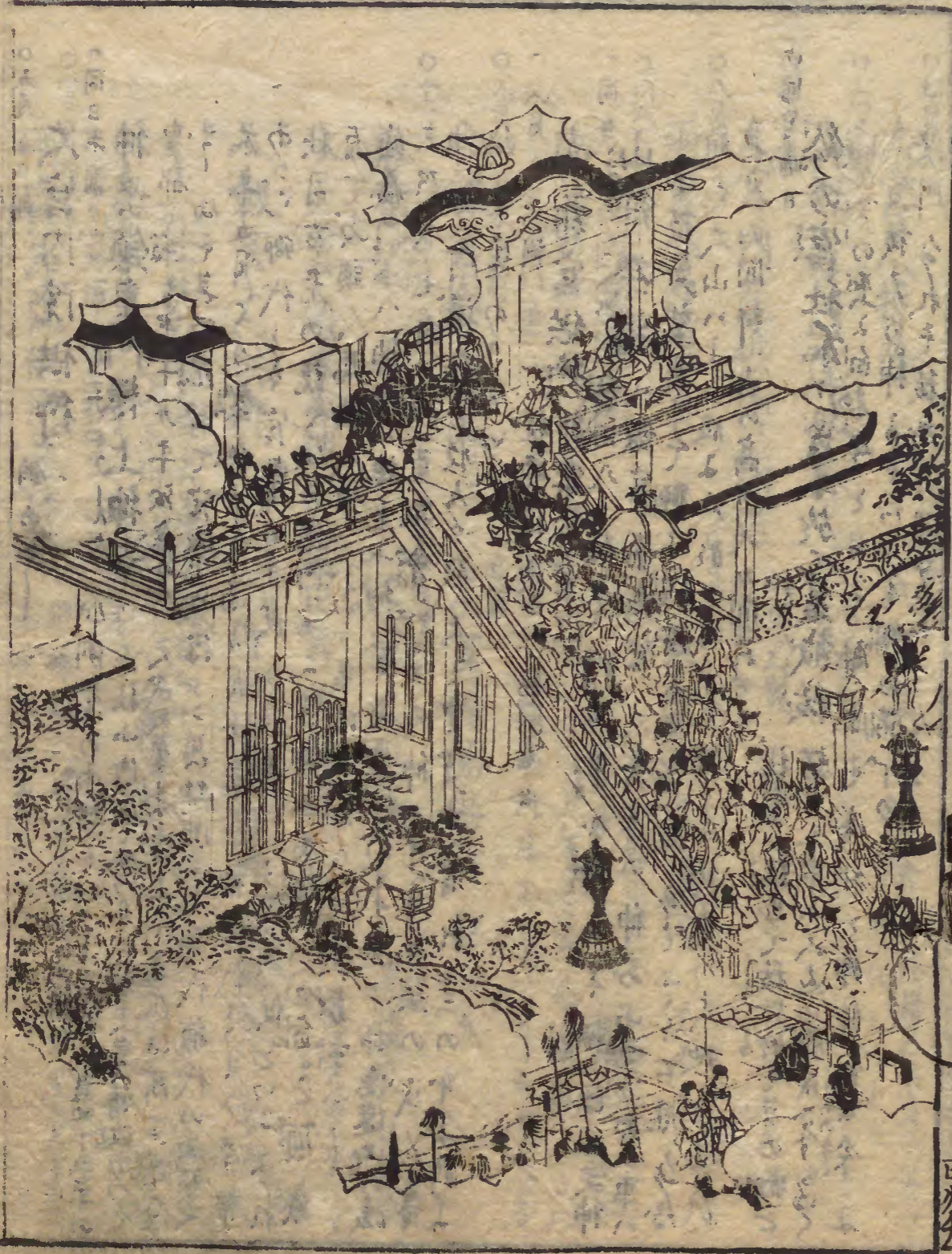
○五月朔日朝

八劔宮内院供御 翌日撤之 諸社小菅浦と尊

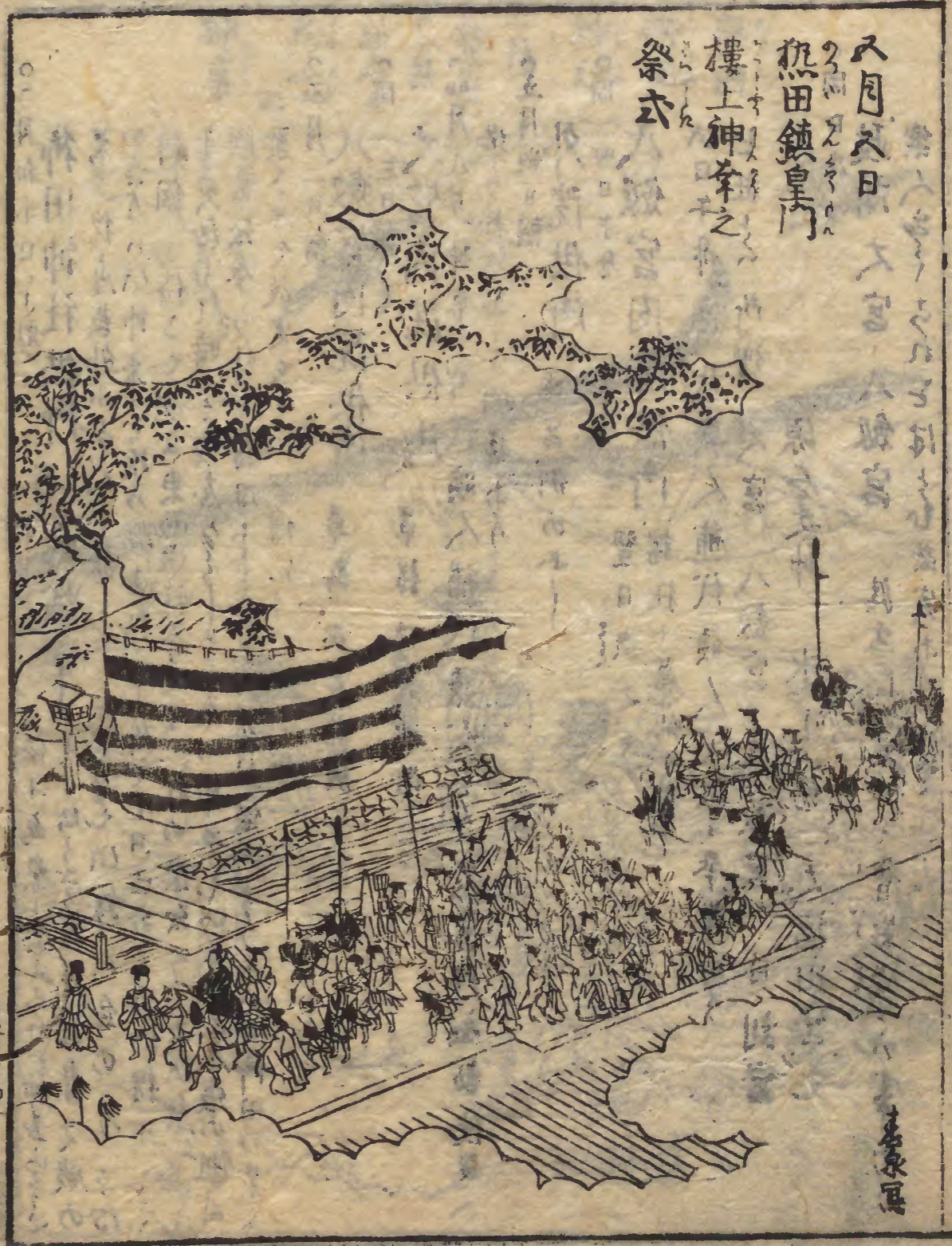
○同日夜

政所大宮 八劔宮 源右大臣 氷上宮 大福田宮

政所大宮 八劔宮 源右大臣 氷上宮 大福田宮  
 樂人歩くされとはとむ故実ありし也



四ノ子



八月八日  
 2月2日  
 熱田鎮皇門  
 樓上神幸之  
 祭式

東京展







支今六帖

風のきふおやあつとされてワれもふう様やあの里も夜うつと  
あつま後の様是の里へ初秋のそら夜をうらみあつた

伊勢大浦 射恒

海ふれく鴨の夢月のふ白ト

くま

松風里

鈴鹿のやうり

呼續演

松風の里ふむれのははるあつたをむさひの心徳をまされ

愛知

あちのうらも俱小宮よりあつた

藤原師長公配所

藤原師長公配所 愛知郡井戸田村旧蹟之云小龜井山龍泉寺しつ

平清盛のちよた遷

平清盛のちよた遷 流されけ國の住人小胡麻の郡司維季ふ作て討せし

九還け妻状を送り

九還け妻状を送り 長寛二年八月小召還されて本位復一次の年

正二位小

正二位小 仁安元年十月小前中納言より権大納言小よりの折第大納言

不明なれ

不明なれ 首の外七加られたる大納言一人小成る事是路之云前中納言より権

大納言小

大納言小 上る米も後山借太長射守公守流大納言之権國外外はれ初さそ承る

管弦の通小

管弦の通小 通小 才流勝る坐されは次牙升進滞らば大政大臣まで窮さそ

由ひて又

由ひて又 いたる罪の報中さして流れゆらん保えの昔南海土佐遷され

治承廿

治承廿 今又東関尾張國を本末罷りて配小月と見んといふ事

公ある

公ある 際の人預事をもたは取て事さしゆれば彼唐太子は賞客白樂天詩

陽代江

陽代江 のをり小排細々し其いお一をさしゆれば海濱路るる小遠見一して

常ハ朗月

常ハ朗月 をを浦風小浦さ琵琶と彈和音詠詠とて閑てふ月日を送りゆらり



笠寺

或時爲團身三の宮然田明神ふ悉訪ありて其後神明法樂代爲小琵琶彈  
 詠一のふ其所奉來無智の境るれ八情なわら者あり 邑光村女漢人雙  
 頭な低れ耳と聳りつゝも更な濁濁と分て呂律と知事ありこれも胡巴  
 琴公彈せしる魚鱗躍遊虞公歌と發せしる梁塵動揺くおれ姑と窮る  
 財ふ自然小感と催ま理るれを諸人身の毛髪く極座亦異のふいとま  
 漸深更ふ及んて諸香調の内ふ花芬馥の氣氣含之流泉曲の間に  
 月清明の光氣争ふ願へ今生俗文字の業狂言縁語の謬知りて  
 との朗詠として秘曲と彈ぬひくを神明感應小堪きて寶殿ふ  
 震動も平家の悪りありせむ今け瑞相と争ねむとやさく大長  
 感涙とて流されたる

櫻田

東海道宮下りり海までのもろ山寺村  
戸部村あり其ふありしと櫻村といふ

万葉

六帖

高市連  
 黒人  
 山風のなきありまらう田の苗代ありと花ふせとばし

光明寺  
 入道

天林山笠覆寺

尾洲星奇村あり

本尊十一面観音

真言宗笠寺といふ

寺記云

高山むし 聖武帝の御宇若光上人蓋本に感得し中々天洞あり

然るに星霜累りて中古去火のあり諸堂滅び蓋像の空しく曠野あり

殊小大徳とて依りてあり又蓋本運ぶ事被彫てある時一村版あり

聖像忽ち水に浸れり侍女とて思ひみづりて被彫りて蓋像の蓋に

着せまのりせり其後都より昭宣公の婿男中将兼左卿吾妻の方

下向しゆり初めは海道の知りて蓋本を都へ召つけり

姓身とあり蓋本に御願中とあり其後地ふり加蓋とす

由縁とありて本寺に今小旗と蓋と被さるゆへ世人蓋ちとす

星奇

星奇とはといふ

松川百首

星奇やあつたの漢火のはのちとくはるまき

仲実

鳴海

沈理辨中を武里三拾町むし鳴海と見えり漢つていふ宮より

後拾遺

鳴海まてゆき一りの満ちたるたのち鳴海の上とす

あつたのちとす所老人とて日をくよとす

三ノ十九

増基法師

新古今

ささちやりの夢とそちとあつたのちとくはるまき

正三位秀頼

同

うらの日もたくれふあつたのちとくはるまき

通光

同

あつたのちとくはるまき

俊頼

債拾

よあつたのちとくはるまき

真昭法師

玉葉

あつたのちとくはるまき

大徳成朝臣

新後拾

よあつたのちとくはるまき

宗祐法師

新後古

あつたのちとくはるまき

後那成胤

鳴海上聖

又鳴海聖とも

文本

あつたのちとくはるまき

系經

伺花

あつたのちとくはるまき

橋島仲光

新古今

あつたのちとくはるまき

大江原房

鳴海寺

今廢し

後古

あつたのちとくはるまき

藤原光俊



遠く成  
 をいづ海の  
 侯子も  
 却年光  
 の  
 ぬらひと  
 ば  
 さらば諸軍  
 勢の遠征  
 と侯迎  
 たるく  
 文法  
 お道の  
 大將  
 芭蕉翁の  
 野原の  
 ちりとの  
 けちの  
 中らと覚ゆ



鳴海神社  
 蕉翁  
 子も家  
 本田通權  
 和舟の達人  
 と著るるの  
 出陣され  
 尾州鳴海  
 候迎  
 一対園の  
 ありぬの  
 下るる軍  
 みる跡  
 其時道  
 古きと  
 鳴海神社

鳴海神社 鳴海驛小あり延喜式内家神日本武尊今ノ東宮明神と稱せ  
子名塚 芭蕉翁の句碑之山王山小あり南ハ大洋洲ノ南極朝然  
祖家ノ地ニ有リ中ノ代々名氏小舊翁自画儼の  
墨蹟と名藏と云其文云

祇園の里松風此里にひけり  
夜明くくちをほさし此夜日

はしと云此園瓜みと云や 嗚呼ちやうり

一神祇所持又舊翁より傳られ後文庫も家藏と云け發句と  
石小傳く小名塚と云く又同句の碑等も境所にもあり是より東  
舊翁の句と石小傳く近年多くあり  
古蹟もあつたれと云く奉事終りん

衣の浦 鳴海より辰巳の方

名寄

波あふ衣のうら此神貝瓜みきり風のくくみそ云

西行法師

寺岡山 鳴海よりけり

ま本

寺岡の山方ふのちちのんりての杜小あひく

祐奉

名産有松絞 鳴海より重許東あり細と糸と風流と持く紅藍は染く  
今川義元塚 有松村と城領村の路標の松ありき御許山ありけり  
所と名産有松絞ありけり今川上総守義元殿の所云

古松此下小標石あり今川上総守義元殿の戦死所と傳せ明和八年十二月廿代念  
氏の建つ所と云はけは古墳多し又吾江村の山中小女子人塚といふあり  
あれも今川合戦の時  
我死の塚といふ  
信長記大意

頃永禄三年五月駿州の太守今川上総守源義元大軍を催し尾州  
法洲の城主藤田信長と攻滅し直上洛ありて頻々風雲ありて久  
信長の江州に佐々木義秀小三子三百騎の援兵ありて所々此名軍將瓜

こめて今川の上洛を遮り中流鳴海に兩城出山只馬奴弘家同半内弘高次  
重し不を智して今川内通して故と云又安寺の岩も今川義季に八千

軍参込逐てあれを拒む早今川先鋒の遠州井谷城主井伊信濃直教直  
小三遠の境に至る五月十二日大將義元四方総勢軍兵引率して駿府迄立

同十六日此裡小陣より信長軍將佐之間大學山田越乃希徳防て丸根  
丸根と持の書も此松平若四郎正親高力新九郎直重又藏其外大勢  
討れつり同十九日此丸根城を攻め佐々木信綱(援兵)と信長將兵と

鳴海の近々捕狭つる三所小陣張り新丸根城今川勢小圍れて往々丸根

まぎきり一若うりたる折弟信長の諸士と聚て酒宴して居し一早くま  
れと殺りまんをり矢取て何の詮うわんを馳向く衆人と無二の合戦を  
遂散軍門は賜さぶさぶとのごとく十九日午は赤あまを熱田の方へ馬に  
まき丸根城あぶさぶお不雄雄に改せんといふ尾州は軍勢休より追々  
此より熱田の旗を口めて追付り信長の熱田明神(傍)に武井肥後入道  
夕菴とる願書以書せ神前にて請ふる其時明神は陣中物具の音頻ふ  
真分れ信長信作膽小銘ト今日の軍味方の勝利疑る明神の加護  
ありて諸軍と下知されたるまの敵味方は陣中申非に合戦始り必死  
とちして攻取ふ信長は先づ佐々木集り秋田房を討つる酒の希ふ至て  
尾州方岩室長門も自孝様合ふ今川の兵八百二十人討つるといふも  
終ふ本陣守り討れりあれりて依りて秋田房室三人の首級桶狭間へ  
巻ひ義之助のひく丸根警津は激戦攻ら信長の軍將あまに討つれば  
首途より一と收び桶狭間の心ある合戦小ねるに惟幕は構て酒宴を

せられたる信長はいふ攻取り善き中流お至り一戦を遂げんと宣ふ時北田  
勝三郎信輝林佐渡も秀頼毛利新助秀詮末田権六勝家まで申し信  
故の大勢の味方小勢おたりし所思慮のふと止むれども信長はあつた  
寺は東は閑道深々若昭寺の岩乃近きある山谷小到り牧討の支度て  
馬の雷込結せ士卒に曹と着せ白布沢の川一様小飾建とてを行と  
向は進とるよと合を急ぎ守り後入り義之助の本陣小相あつり其折弟  
夕立顯お停てお吉少(さ)りゆ後河勢の急本も急ぎて中斷して  
居るる不(孫)波とて川とを揚ふる今所勢敵小周章騷折はる前田大六代  
利勝本下雅樂助嘉季中川金屋房秀胤毛利河内也秀頼同新助秀詮  
佐々木向五郎波盛とての首をり大將信長お敵を藤田出羽とて謀心  
山とわたりて敵陣の後へ迫る衆三在陣門可成り馬強る軍兵は百騎とて敵  
陣小入り縦横小馳ちり大將とあつて討つを働さる信長は敵の討策と巡  
今川勢は引包する俤ふりて四方の谷々巻くも孫波大將も一交あつた



因云  
 近年  
 寛政七の  
 大坂  
 新小  
 主婦の  
 病身  
 困窮  
 の路  
 の後  
 親  
 母  
 打  
 け  
 村  
 官  
 市  
 白  
 津  
 賜

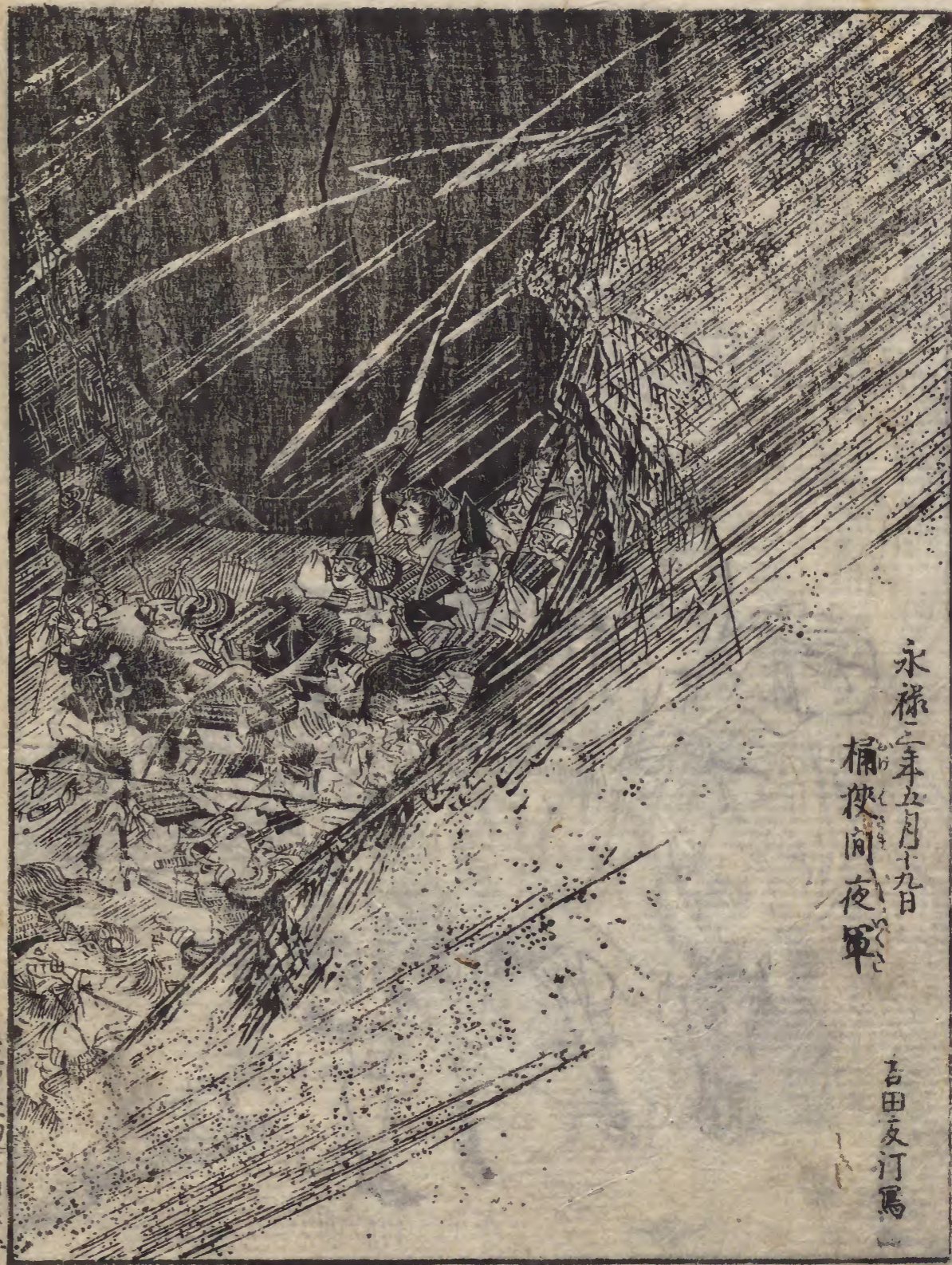
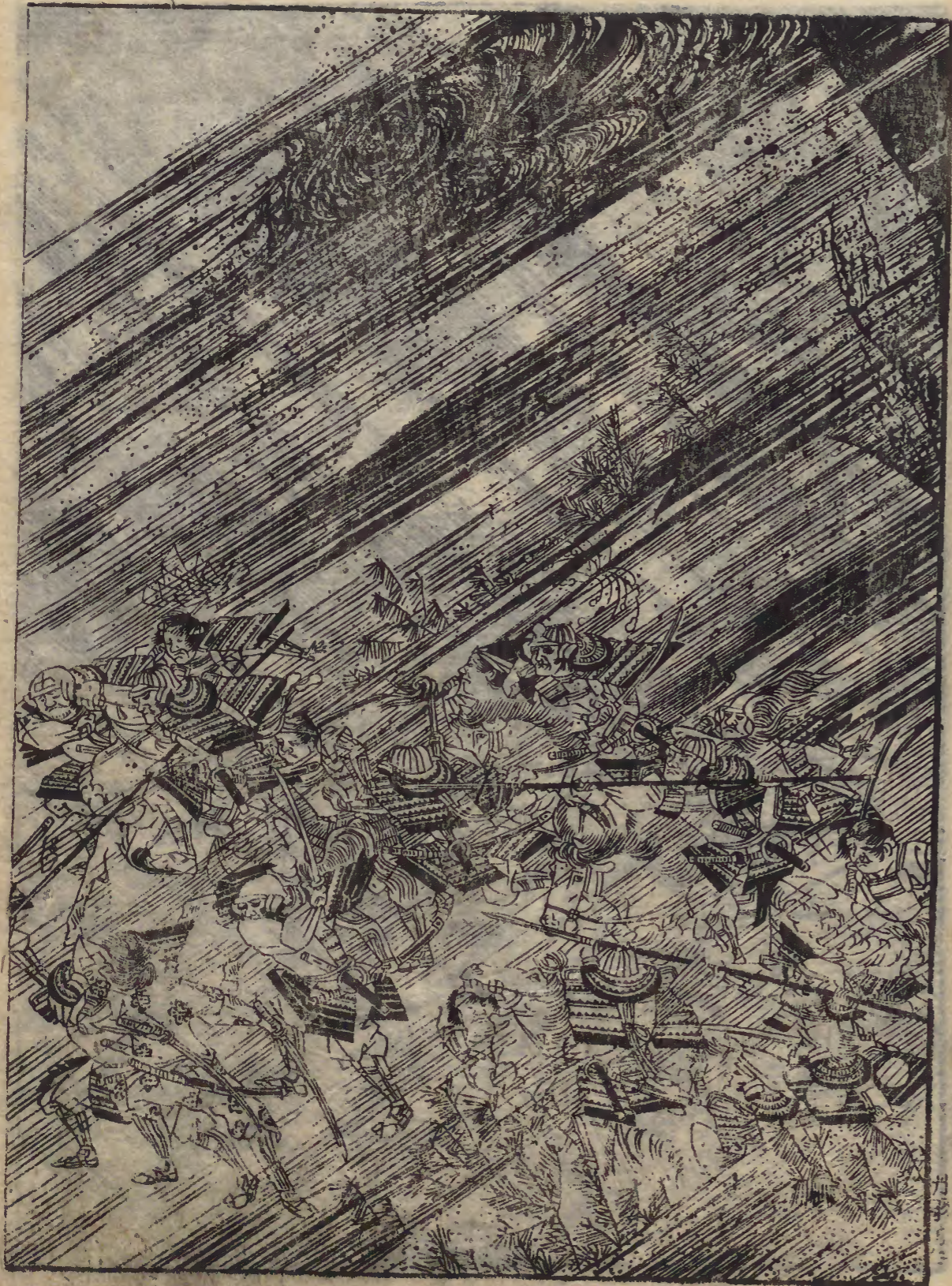


春泉齋画

尾  
 名  
 藍  
 諸  
 ち  
 店  
 買  
 所

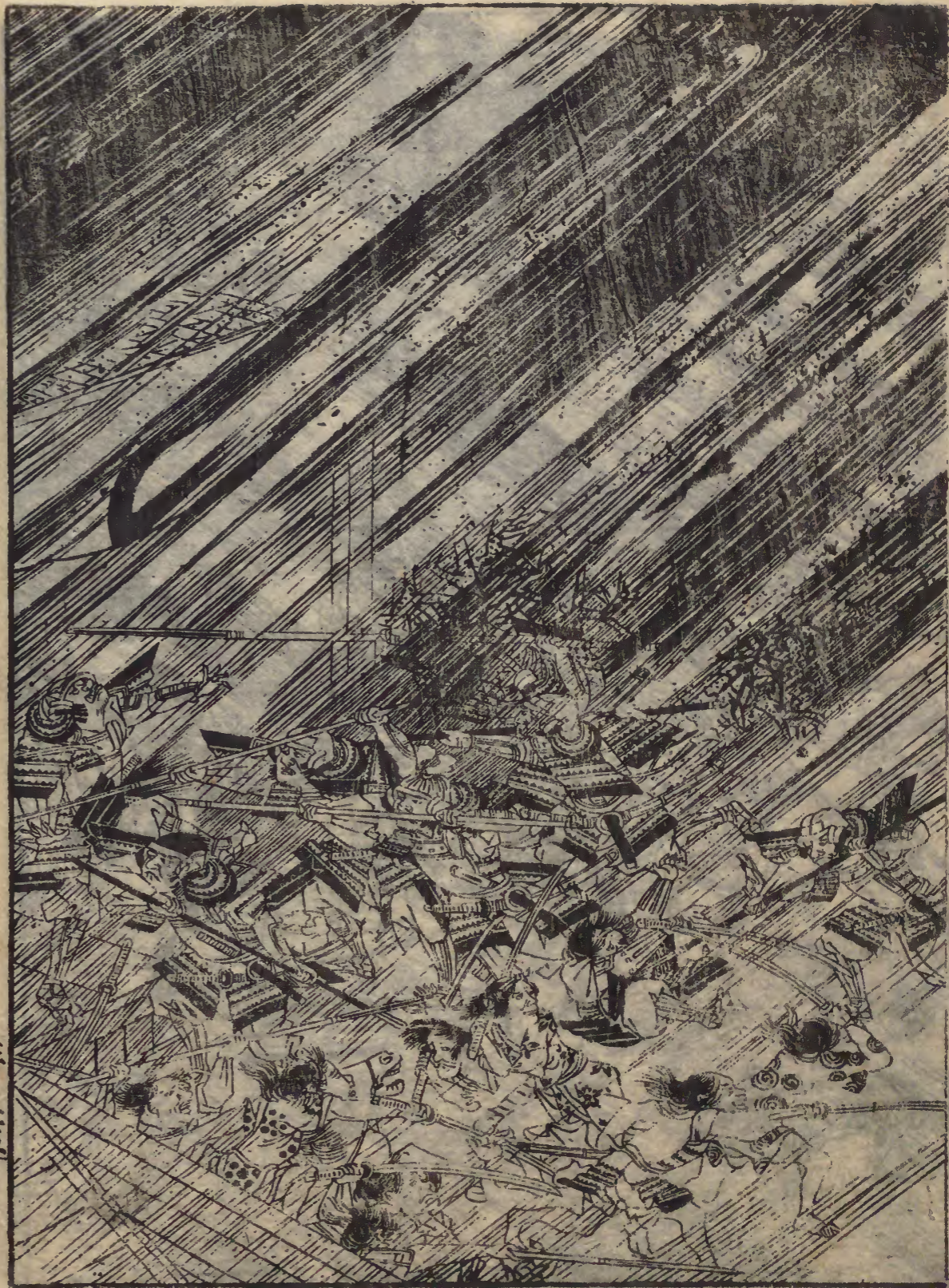
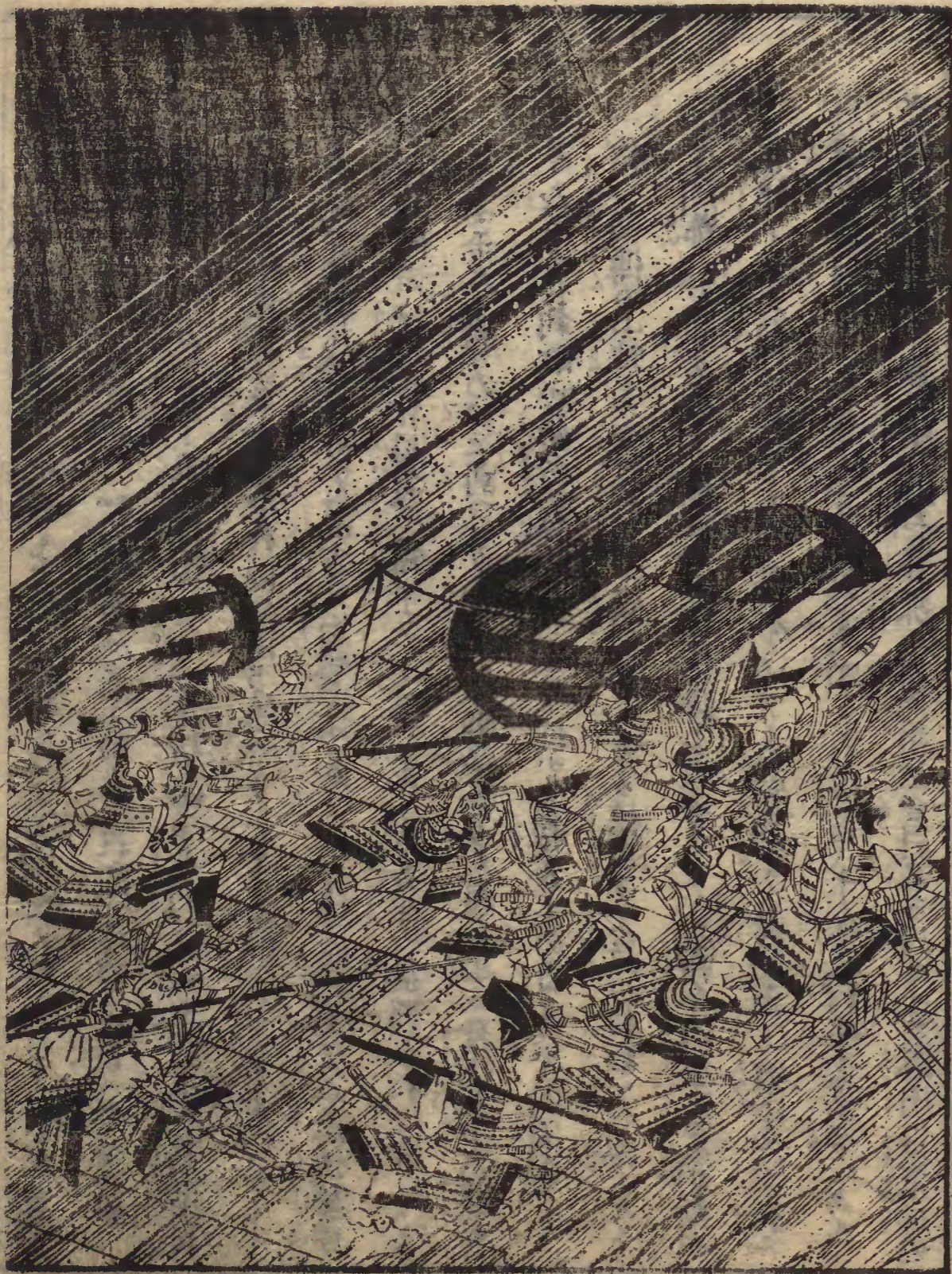


三ノ世三



永祿二年五月十九日  
桶狭間夜軍

吉田友汀寫



かく小相言葉伝しておもむきさび攻ふる今川方の大勢を討て軍令  
乱れ、兵卒一被せられぬの驛馬氏者小駈立られ閑三時一夏の車油の如く  
降れれを十方と笑ふふ織田道酒允林佐治も毛利新公も織田田羽  
守中条小市房遠山甚を弟同河内守等一々小争て健と入る平電の如く  
義えい床丸小徳とあけ四方と白眼と下知りの所へ服部小平太忠次秘勢  
中込潛て義え公目惣て健とゆへはく義え公無双の猛将をいふ事とも  
せよ小平太の膝の口と割つけの毛利新助後(通)り大将と小我公義えの運也  
そたりらん新助小落合て終ふ首ととられ小者扱義えの首は今川國氏より  
代々相傳の山蛇とふ名劍と副て實檢小入ふる信長と不収ひ凱歌を揚ふる  
今川勝、いともさうで挑我ふ林佐治と云々上り大將今川友と毛利新助  
服部小平太討たりと鳴れ今川方あれはさう力と落し敗れをい一我  
駿の勢討れし初合三子五百餘を尾州方も五百八十餘人討れしをさへん  
され今川義えの駿遠三州守殊と英雄武畧は名公將中更海内のみ鬼神の

かく惶れりも又運限りありて今川松代わじをけ聲の老雲幽谷小園く樓  
風古の幾しと墳塋や落葉と埋れ成りたる葉いたまほまの道行く人もむ  
まふとありある石井平むりのおとく枯骸の魍魎小托し羊枯が墮落  
の碑も春月累りぬれを苔層繁しされども雄名い天地おとく  
文物の日月星ととも真しとけあつりの事あるべし

隈川

尾三二州の國隈川は橋が  
軍記あり

池鯉鮒

岡寄まて三里三十町は宿の入口に相妻川とつあり末の川谷流て海入  
晴記云比鯉鮒をく所倉小狸のくんとれとむあり  
け里の名小あひつりことをるの料理ととる此の裡附  
光廣卿

知立神社

駄の西入口あり進喜式内文徳實録云仁嘉元年十月加從五位上  
三代實録云貞觀六年二月授正五位下同十五年八月授四位上

祭神膏不合尊

例祭四月二日宿願神社隣二十餘村刈各下等の生主神  
山岡忠左衛門とありされ再建の御主といふ

多宝塔

社頭小あり傳云嘉祥三年建之云云九輪の表小

古額

表正安傳の神は印

神殿小庭に裏文あり

末社

神母御神明荒神

神離門

石橋

神離の外あり池と洗

的場

穀神祠其外廢祠... 例年九月五日... 射場を神射の中... 矢次額... 姓名次記... 近園... 古流騎馬あり

除腹蛇神

札別... 夏秋の山中... 農林... 穢神... 遠近... 早魁... 神宝掛の面

御手洗池

農民知立社... 雨次作... 社頭... 八幡... 神宝掛の面

不道

池程附の宿本郷市... 古傳の面神寶あり

池鯉鮒馬市

毎年四月廿五日... 馬口労働者集... 馬の東... 馬の價... 馬の飼

知立神社

ちよしのんよ



神社の... 神... 半世...

知立神社



五馬次除く  
桐とらふあひ  
あつとせ

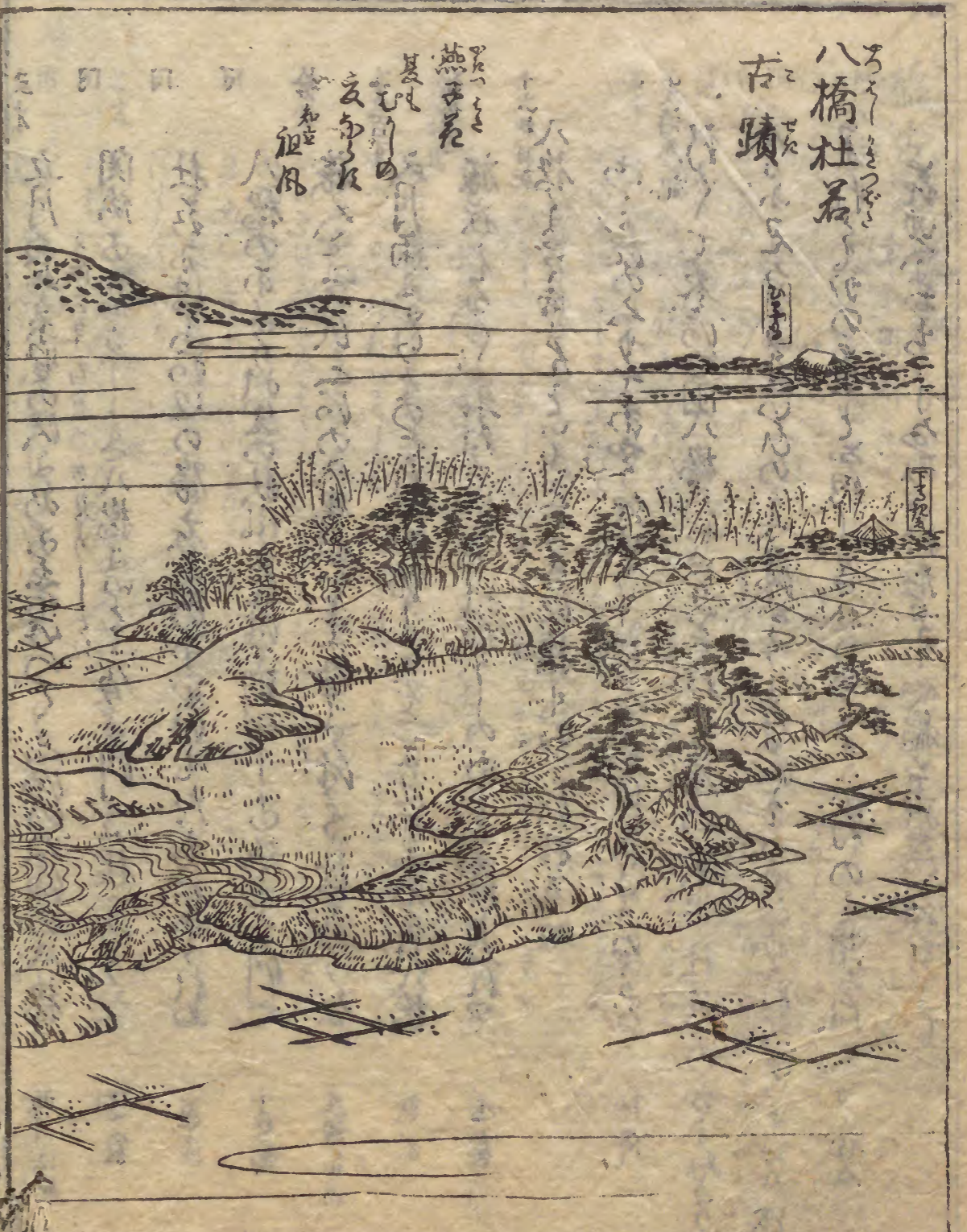


此の馬の  
池裡新驛  
馬年ハ毎茶  
四月廿五日より  
終るて十日の間  
あり周禮曰  
八尺已上ハ龍  
とて七尺とハ  
ちと八尺を馬と  
り入馬次桐とら  
ふとせつと麻





舟月の月影の  
古のそとを照らす  
とてみりては  
下をくまねおと  
る  
舟のしり  
今さうり  
そののり  
みるまの細



八橋杜若  
古蹟  
燕子花  
其地  
まゆら  
和風  
八橋  
下





かくて三河國よりぬ椎裡附馬場とて教里の聖原とて二岐の橋原  
名づけて八橋といふ所は睡る鴛鴦の夏臥辞し去る水もせり杜若の  
時波運く開き花のむしれ色もくは咲ぬ人橋もあつた橋なれり  
幾度ほろろけりん相如き世にうらうらひ肥馬も乗る昇倦よのうら  
幽子身は捨つる窮もふ類て高橋とほく八橋より橋をとりておほふ人者  
もさき橋柱よ橋柱よあれ朽ぬまむあつた橋なるものも今も又さく  
佐佐木もつる三河のあつた人柱さてもまらさくさく

送子 和赴 三河  
東方千騎下関門 澤國江山雨後昏 物茂卿  
杜若橋邊春州色 知君駐馬問王孫

三河八橋村  
中郎遺跡 問荒村 落日春陰野水昏 六如菴  
燕也 不來花也 未 蕪蕪 愁絶 奈王孫

夫八橋燕子花の名不賞まらる事い古今集及び伊勢物語より出  
たり在中將此吾妻よりいけ物語を編集し原は書と古今説々多し

世小業平物語は自記といひあるひ寛平の宿女伊勢物語の他は諸冊は尊  
みとのまのひら男女物語といひ伊勢の二字は妹背と畧訓して合り又後浦は  
袋州狐の業平は他れも自記を論せし便は従ふ同士のわが扶云  
はは孫多の業集はあは入ることを一説は齊宮の事と論とさる伊勢  
と平氏和泉式部本は齊宮の事と初ま書りといふ業集の真淵は古はなりて  
伊勢の僻物語といふ説は一説は業平自記といふ説も謬るん仁徳の御門行川  
り業平と書りてあれ業平没後其事を服元喬在中將の論と著して其人の  
風流と行事といひてさる事と論と 按ずるは郷土風流と體して古き  
歌多しは性音は厭達るる文とはは孫語と嫵婉も基とて後人艶文家の他あり  
必しも盡く在氏お出は或云ふ業集三代集傳授もまづは物語と初小傳し  
むとあり源氏物語の虚を實小書りては物語の實と虚も他れり孫と僻業よ  
虚と實もまづゆへに感説多し実と虚と虚と虚もえれは紛々事ありあれ  
伊勢物語と續口傳と業平物語一期の間は事と書りてそれら古き

書くはつらの上の句下は句をなせたる所を他抄のありしと云ふ

けの申にありて川のほとりてなれば橋と八つてなれりて八橋と書はる

真淵のありて川と評しそ水と四方は田圃の用水とて八流の小川とて

あれ橋とてたりはゆふたれはくくんと書るは一件は鎌倉下りの

時中早廢して橋も燕子花もなすてなれりて八橋と書はる

けは修徳のありて杜の幽艶とておの一名白吉花とて

齊宮のありて夏草のありて中にもなす折神とて

八橋杜の圖々無うして風障子に画諸品の時装衣服の織物菓子

名までせりて園を輪とて及ぶ山は國一州の名高に勝蹟あり

橋雲廢寺 八橋古跡の側ありてむし加蓋のありて門あり鎌倉海道あり

とて知立の祖風云々は耕され古居多く鐵頭ありてけ

益量寺 八橋村ありて八橋山と号堂ありて業平作一平薄あり

本尊正觀寺 寺説云業平の作とて詳ありて又業平像あり又堂

前八橋の碑あり下野州奈須黒羽之産由良不諭立之云

當寺縁起小業平の遺像と遺骨の半ありて其遺骨は和の勢原村あり

五月十五日は入江の汀に墳を築てては寺説ありて河海抄云在原

業平八白幽雅としてわが名は昔は六哥仙のまをて一旦吉野川の

八橋とてなりて時當ありて人の里に告の郷とては詳ありて

狭投神社 賀茂郡猿掛村ありて高野の皇孫の皇兄と社説云

祭神大碓皇子 景行紀五十二年狭投山小登り地毒中と説く

御年四十二と云或云古事記岐美二尊の御子と類那藝神あり

從五位下三代實録云貞觀六年授從五位上同十二年授正五位下

同十八年授正五位上元慶元年授從四位下云々

矢矧宿 別東矢矧とて國名凡土記云むし驛宿ありて西矢

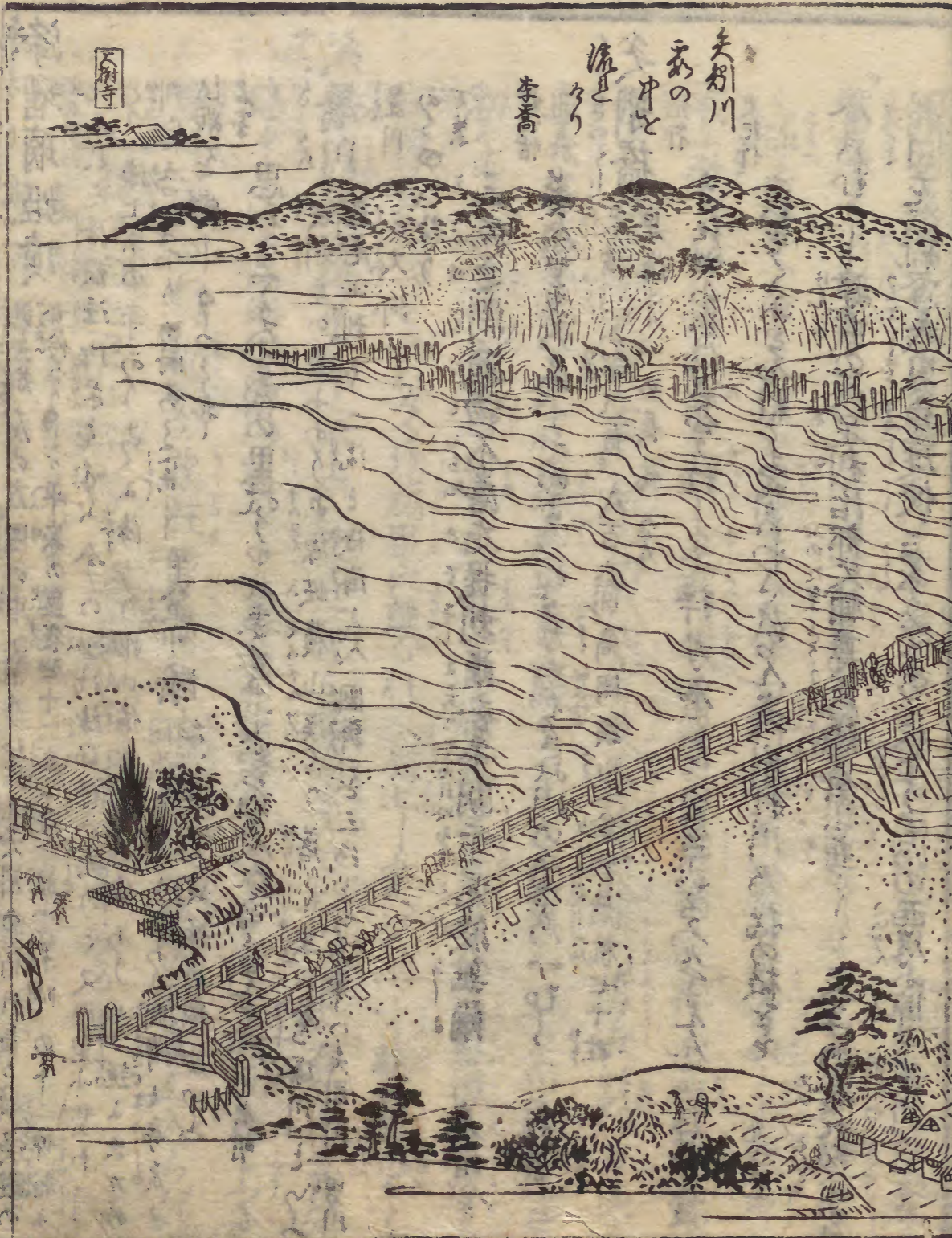
新六帖 梓弓をたの里にむし採花ののころのあつてはる

類聚 狩人の矢矧ふまふしをとりあはあまをてらんそよ川水

富士紀乃 道のへれはゆのの紅葉とてあやをたの里にらん

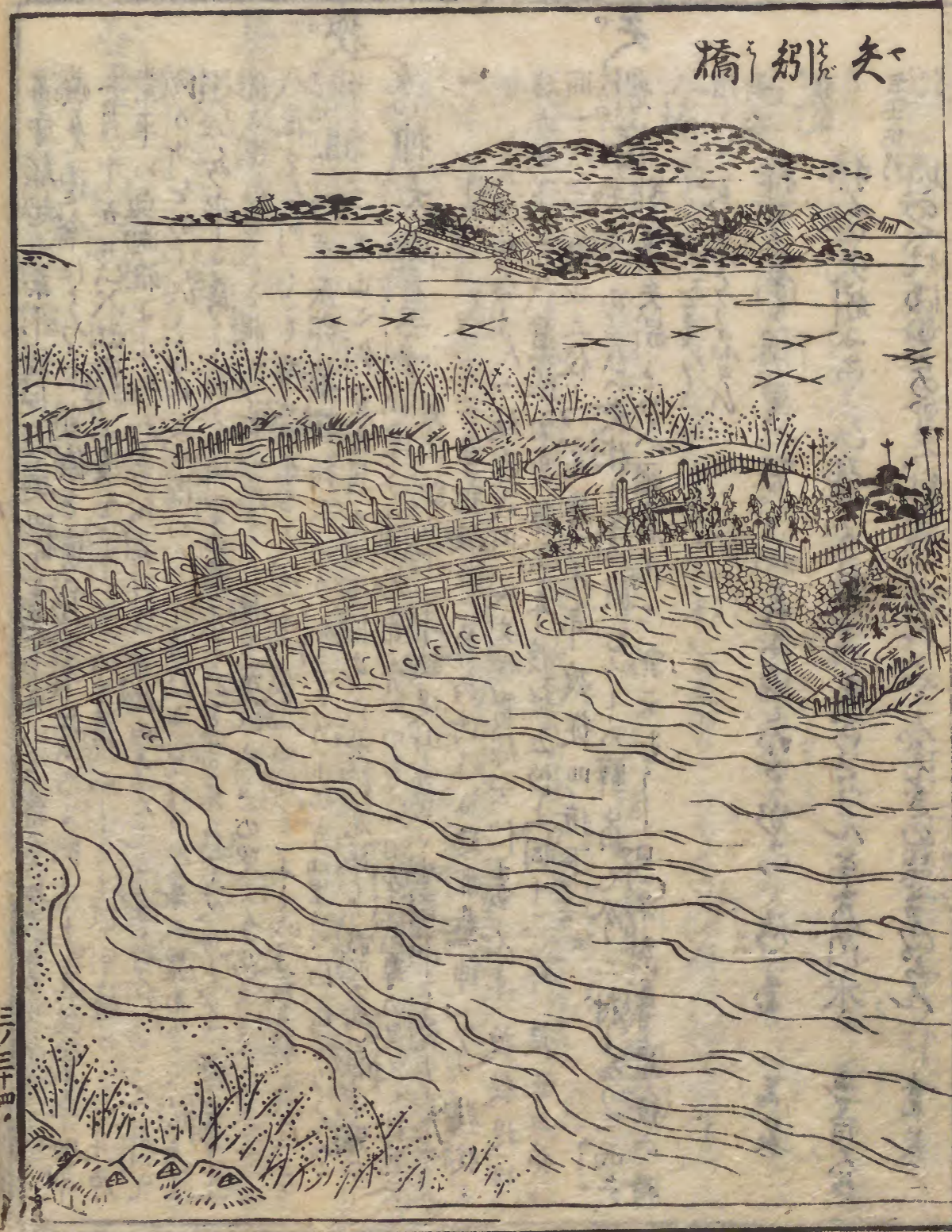
富元春

天徳寺



夫利川  
赤の  
沖七  
流是  
より  
李喬

夫利川橋



三三四

淨瑠璃姫墳 西矢別たの方圃の中ありむろ大洲の宿此長崎の十二神將の比をれを浄瑠璃作とす今この浄瑠璃の始り又い里小雲手判官吾妻下りの寺ありあり浄瑠璃の像あり寺説云九房は姫を愛しありとす 美婦塚 同前東の山あり岡業女房あり

思ひまや矢を羨の里はうのれ妻せむもかぬ人なご免を 名実

矢橋川 矢別里の東あり源岐嶺山溪より落くまの勢塚川といふ

三河之淵瀨物不落を提刺爾夜手湖下児波無爾 春日

名居せまありてわよわのさうやとそ井川の勢乃一む 行家

矢別橋 夫橋川小架以長式百八間高欄頭巾金物橋杭七十柱

う死せわいはとさくれと梓弓をそれの橋おむるをん 本草元政

真ましくおとわれとあ我らわはらん矢別井川乃橋の板と 光慶

今むろ建武の足利治部大補尊氏謙倉小在 天子の命に叛くは

新田左兵衛督長貞第度使と蒙りてさけにわりの西は小陣を足利直義の

い川の東にゆく上下の瀬とうして進まじ官軍馳合せて足利勢と伐

警隊まで返討せたりたり時足利も溜り返駈たりまぐは足利謙倉小

も怖れ殺ふるうけつと天運と云から新田伊豆の國府小澤あり我勇

威不傲られ狼縁の体也却り足利も殺されぬる我勇情れ抑は合戦は根元

鑑小 後醍醐天皇公家一統の御代小歸り又大塔宮は足利直義にけり

直義姦佞邪知者なれ謙倉之密不傲也 天皇は御恨ありて足利然歎す

勅ぞありたる尊氏新田小攻られて敗ゆ謙倉は建長寺に今判官夜を

成隊ふ出ると云れたる諸軍に練られ又旗上り史は八十万騎の軍勢と

成て勝利は得かふをを末紀小くう星霜累うて河川の水は古今に暮ら

悠々と流し四海は海風標ゆき希勒の諸侯は弓と袋やと威風揚上ふ

凜々たるこれ相如が檣柱の誓もく張子房が圯橋の兵書も入ら

只五杉の虹と天小架せり長橋といはけ所の事ある下

西辰紀行 建武戰場 恩賜旌旗如日色東隅雖得失棗榆 羅山子



都  
 流  
 延壽丹



岡崎の常陸都會の  
 地はく買人多く  
 美のわたさたり  
 半かゝ仙方延壽の  
 良業おあめり  
 岡崎女帝亮と小奇  
 も観るべきにゆ  
 不老の標ととも  
 みお旅の風流や

長久保

岡崎

藤原中世を里半岡崎城田名龍崎といふ永平の松平右衛門尉春親とて人初て高城を築くそれより代々諸侯に仕へて慶長二年より本田彦領せし城下の町敷九六十餘町廿七曲といふ高瀬部會の社ありて老人多し繁昌の所城下の町八幡宮之にも八幡社あり壯麗ふりて放生池石高橋あり生土神といふ

今朝守の毛たさなり茶種られあふ人侍中

小橋通明

成道山大樹寺

岡崎より小寺里許鴨田村あり

本尊阿弥陀佛

座像七尺脇腹光善光寺師善導大師の像汲安に

將軍家御魂舎

源頼光念持伴といふ機小後緑の画あり徳の

杉戸の画

鶴の画あり徳金の一徳の画あり永徳の画あり

檜の画

徳の画あり徳金の一徳の画あり永徳の画あり

故將軍家軍戦の時

徳の画あり徳金の一徳の画あり永徳の画あり

其外

徳の画あり徳金の一徳の画あり永徳の画あり

千人塚

徳の画あり徳金の一徳の画あり永徳の画あり

大屋川

其一の敷夏のひり小橋あり石を橋まで續々架の分り辺のを懸り

大豆阪

徳の画あり徳金の一徳の画あり永徳の画あり

二村山

徳の画あり徳金の一徳の画あり永徳の画あり

山家

徳の画あり徳金の一徳の画あり永徳の画あり

名寺

徳の画あり徳金の一徳の画あり永徳の画あり

ま本

徳の画あり徳金の一徳の画あり永徳の画あり

西行法師

徳の画あり徳金の一徳の画あり永徳の画あり

ま本

あつた川にむし山の若はし 後打を先し けつあはれと

俊忠

續古

ちんぼくは聖海をくそらあつたままにまをたれむ 二村の山

平泰時朝臣

千載

二月をみ帰たむいぬのやととんきふはととてをさるるな

権中納言俊忠

衣の里

岡寄の山あり 舉母も書に今成下とあり 内藤侯領せし内太の

千載

直塔をみぬとてせし 藤花もぬもの里ふ白 かくりり然

貞茂

白ゆ

白ゆは咲かせるの卯の花を衣の里には備せありたる

後金多

ま本

赤坂まで式里九間むし けつあはれ川に宇治川にむし けつあはれ川に

藤川

けつあはれ川にむし けつあはれ川にむし けつあはれ川にむし

山中里

山中忠重の古城あり 右の方里山は舞本八幡宮立ゆ

紀行

おほつるまの山中ふり藤花もぬもの里ふ白 かくりり然

ま本

あつた川にむし山の若はし 後打を先し けつあはれと

山中里

山中忠重の古城あり 右の方里山は舞本八幡宮立ゆ

ま本

あつた川にむし山の若はし 後打を先し けつあはれと

山中里

山中忠重の古城あり 右の方里山は舞本八幡宮立ゆ

ま本

あつた川にむし山の若はし 後打を先し けつあはれと

山中里

山中忠重の古城あり 右の方里山は舞本八幡宮立ゆ

ま本

あつた川にむし山の若はし 後打を先し けつあはれと

山中里

山中忠重の古城あり 右の方里山は舞本八幡宮立ゆ

ま本

あつた川にむし山の若はし 後打を先し けつあはれと

山中里

山中忠重の古城あり 右の方里山は舞本八幡宮立ゆ

ま本

あつた川にむし山の若はし 後打を先し けつあはれと

山中里

山中忠重の古城あり 右の方里山は舞本八幡宮立ゆ

ま本

あつた川にむし山の若はし 後打を先し けつあはれと

山中里

山中忠重の古城あり 右の方里山は舞本八幡宮立ゆ

ま本

あつた川にむし山の若はし 後打を先し けつあはれと

山中里

山中忠重の古城あり 右の方里山は舞本八幡宮立ゆ

ま本

あつた川にむし山の若はし 後打を先し けつあはれと

山中里

山中忠重の古城あり 右の方里山は舞本八幡宮立ゆ

ま本

あつた川にむし山の若はし 後打を先し けつあはれと

山中里

山中忠重の古城あり 右の方里山は舞本八幡宮立ゆ



け山までいむりーんーあく地まらよあぬのりーん

ぬちうらなむりーもえしみる地まらまらぬのりーあふふ

山の裾登ふ外のある所よの谷の二つありいりて何の役ふあてまらんと

東鑑曰頼朝上洛之時  
建久元年十一月十九日巳亥入夜今宿

宮路山中給  
二村山法藏寺  
山中村より初行基僧の兼基りて法相宗と

本尊阿弥陀佛  
後小松院所宇至徳二年宗師赤福寺教範上人ありて

其證堂のなみ釋迦弥陀の二尊そありん境内親善堂ふ初の本尊阿弥後

怪藏鎮守あり上増の地み將軍家御宮下儀の地み名泉あり賀勝水と

とよ岡初將軍家所の地み御祝水と又門ふふ六甲の古松あり藤橋掛松

とよ岡初將軍家所の地み御祝水と又門ふふ六甲の古松あり藤橋掛松

**赤坂**

御油対て十六町右の方ふみ外記の古城あり又岩隈園の赤坂あり

ま本  
赤坂の地名ありては

赤坂と愛はる里のふまらて夕日のあそむるやありん

宮崎の山城まらるはと赤坂といふとありり赤坂ありん女ふ大江の

守え家出たると表人の登も道其縁ふらねともあり別をあり

ゆゑのんごころ一眞の道りなりむらりらりらりらりらり

つうれん身まらるをそく葛のそけいそあぬけふう魚目し

は大江定基の儒館志賀寺は入し出家し寂照と改名八家して異國まで

名はゆりりせり定基出女の息音は連なる岩隈園の赤坂ありん

赤坂の宿とさむい宿の住君花の顔春あまふいて蘭質

の秋芳し紅女ゆりらる良辰潘安仁身妹さのりて契と三洲吏の妻あゆ

長々長人又魁して世を早く人々も妻ふあぬぬと何れり新生の

菩薩の化現してまら導るる又とら園通入師の發心してまら

つるれ果の若知職人ひらる園城と

いふあーくうつぐみちあちあちまらあそるらるは若きりせば



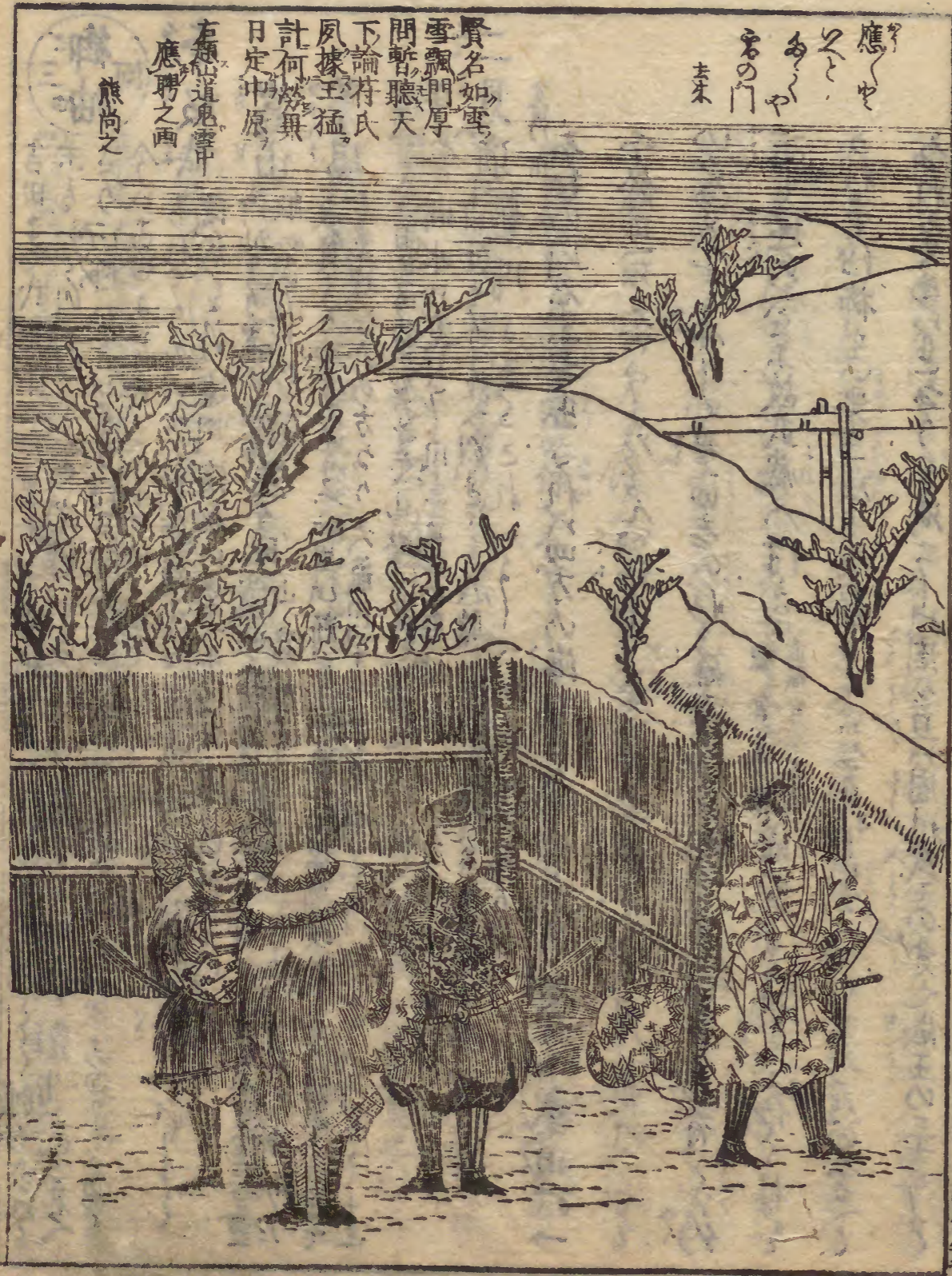
禁城春色晚蒼々  
 馬柳や  
 赤人君の  
 軒の  
 木々  
 蕪村

洛東大雅堂  
 餘風夜圖



光のさすのふり  
 本野原富士

小谷平春時  
 本野原の道標  
 小くく柳  
 多く植られ  
 たり光切が  
 紀りふえこれ  
 と賞よく  
 調は且乃  
 耳崇よも此  
 せんをある  
 されたる



御油

本坂

嵩山

茅場

二見道

先記

吉田まで武里半田町原吉備記云古の三河のあこみ道とて別あり  
 末に記す所のあこみ道は老翁いふれりかん登りて豊川にひくと  
 今いふあこみ道は吉田の志賀須香のつりかありとて  
 あれとてたの方(別街道あり)荒井今切の海上に修るべし  
 嵩山(置) 嵩山より二里半 山路あり 氣賀(置) 二里半 氣賀まで三里  
 山路あり 氣賀より四里をまて四里は所本海道とて遠州渡ねよりけり  
 茅場 氣賀より四里をまて四里は所本海道とて遠州渡ねよりけり  
 二見道 豊川に至るこれより八幡口とて原小のつり  
 石むの川原ふ出され四方の海にのりて山をくまひて秦田一  
 千餘里をたつたえの地とて茶土ともふ茶荒とて月の夜れのと  
 いらんと茶とて覚ゆきけり 藤原の中に救多とてけり有るは  
 末も迷ゆとて故武藏乃ばとて 鎌倉 執權 道のためは茶ふけり  
 くれまの物もいふと法とたのやまていふれともうくまづるのさ  
 るれるものさうとて海より周公旦の周公の牙之成王の三士とて

燕とて國ははるをとりさき一れあの方とてあら一時かとの甘棠  
 のとてとて政とてりし時はさうりけり 諸は氏ふ至るまで其本と  
 うらむる昔人の徳はさうりけり 遷とてさうり國の民あざりて  
 其徳政とてのさうり周公去す一跡をいふの本とてあてりて  
 うらむる後二系天皇東宮とてさうり小學士實政任國ふ  
 附國は氏とて甘棠の徳とてさうり茶とてさうり風月の益と  
 りの所製とてさうり勢たりさうりもいふとてあら一れあの方とて  
 召とのあてりて人さうりみおとてさうり茶とてさうり  
 て枯あられる柳を是とてん茶とて皮周公とてさうり國の民の如  
 そとてり茶とていふ茶とてさうり其本意とて定けたがり一とて  
 哉とていふ茶とて柳とてさうり茶とていふ茶とて  
 茶とていふ茶とて柳とてさうり茶とていふ茶とて  
 茶とていふ茶とて柳とてさうり茶とていふ茶とて



祭神菟上王

古事記云開化天皇條下大股王之菟上王

鳥年中依神告併祀八幡宮祭式射取雀十二羽為祭牲

三代實錄云貞觀六年二月授參河國正六位上免足

神從五位下 鐘銘云參河國宝飯郡渡津郡免足大明神 洪鐘

右為志者天長地久仰願圓滿國上安穩諸人快樂所

奉鑄也 大工藤原助久 勸進聖見阿弥陀佛

檀那 朝阿弥陀佛

山本勘次故居

室飲郡小坂井の東牛久保村あり今第跡田圃あり

此所の村老云此村頭の東方土中より堀出に其遺蹟方五間許の池

今よりり石階松石の連なり

山本勘次安危と能所を觀て牛久保を蟄し其以天下廿四將の其一甲州の

大守去田大膳大支晴信 薙髮後 駕を枉めされを顧る事三つびよ及び

人々展して等好むる事日々小蜜の家は遠山右馬助坂垣信賢等收む

晴信曰われ勘助ありと奥小水わがわが一再び言復復は事かれ

際不出陣ありと日教僅小十五日の間小信州に於て九城を陥れしれみ軍師の

計策小據し成人云和朝の外龍明劉基と比せん其蹟名高竹中重治

穴山梅雪真田幸村をとい山本が門ふとやや

鹿神社

寶飲郡 諸書云鹿と飯の一宮村あり延喜式因峯の社と奉宣と稱次

祭神大物主命 風土記所祭大物主神 圭田加神 禮

文德實錄云嘉祥三年秋七月丙子朔授三河國

鹿神從五位下 仁壽元年冬十月己進參河

國知立 祇鹿兩神 階並加從五位上 祇鹿神正五位

三代實錄云貞觀六年十月授祇鹿神正五位

上貞觀十年八月授祇鹿神正五位

社説云系神大已貴命大物主文武帝神等ありて大宮の草鹿祇公宣

御煙嶽山 勅使の時神志有て公宣卿とて高社の御神とま

西の嶽 投社奉母の里南は大洋嶽とて風之深少の

依はつれんもなりたりけのあみの志の

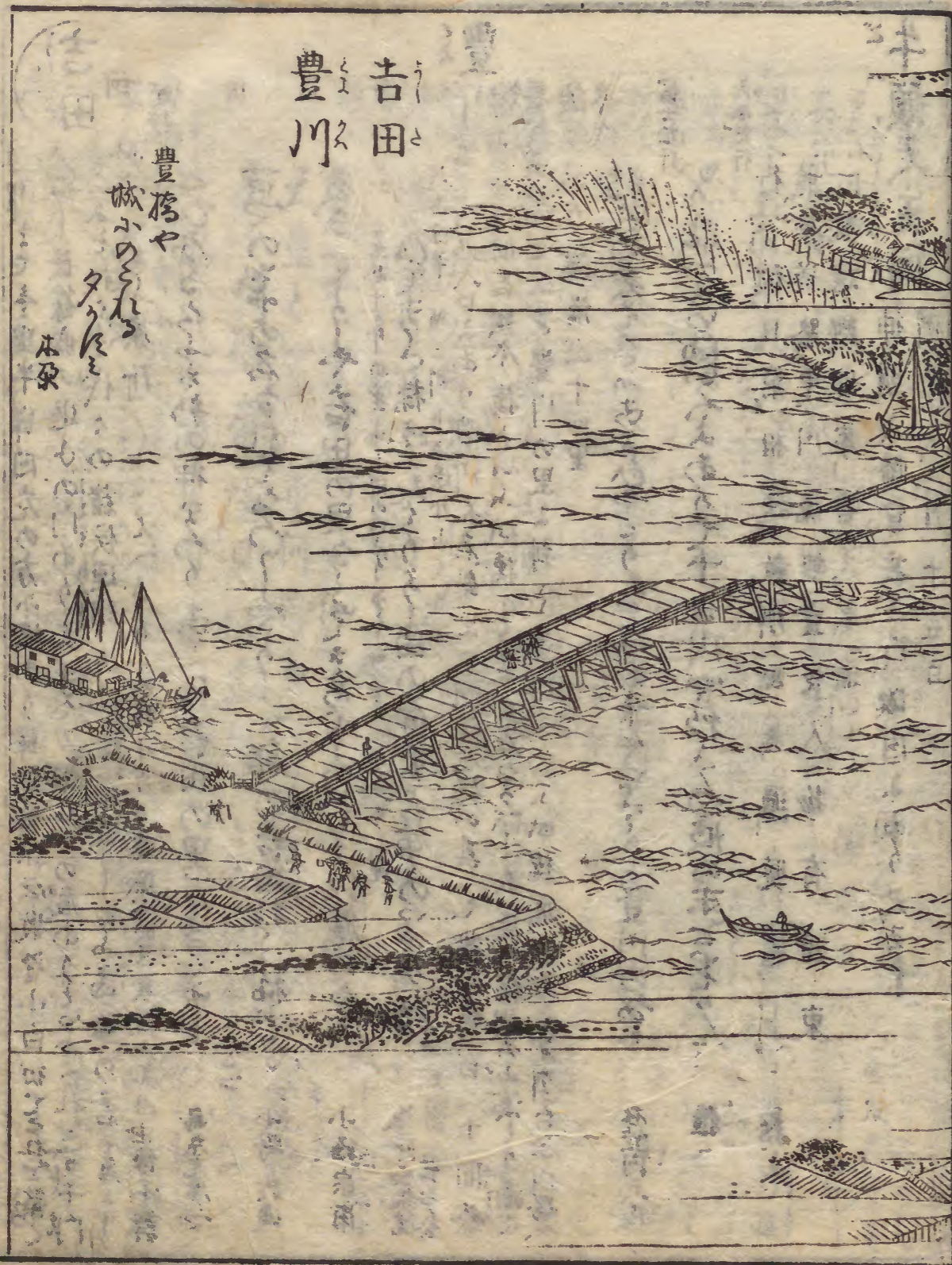
五つれゆらんをのきみさのあおひ了終され 楠千世

吉田 豊川

豊橋や

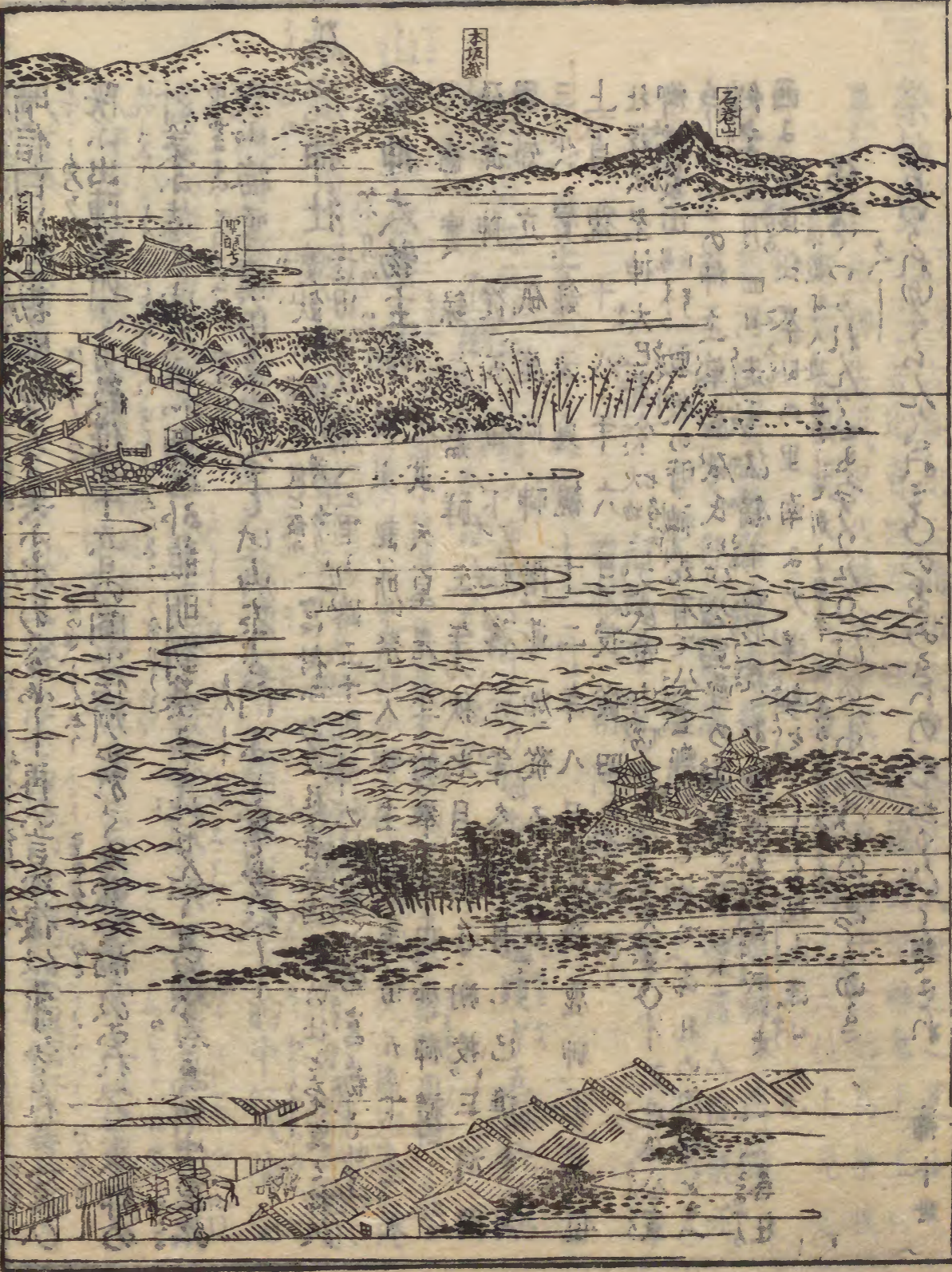
城小のり

本原



本坂

之巻



吉田

三川までき里半驛内たの方小城あり驛路鈴小云牧置小白初これと築く  
吉田 長篠城の進子の内あり矢平大刀鑑などの蔵ありとよみれと吉田  
代々の諸侯連綿と居城しゆふ西駿の石を産す  
火の氣を家所くしるへり又関小方古墓城下賢使院あり由縁不詳  
此の里と云ふは吉田の里と云ふべし

吉田の老の老をたよりしやうと都の吉田の福と  
小野茂通

吉田の老の老をたよりしやうと都の吉田の福と  
小野茂通

吉田の老の老をたよりしやうと都の吉田の福と  
小野茂通

吉田の老の老をたよりしやうと都の吉田の福と  
小野茂通

吉田の老の老をたよりしやうと都の吉田の福と  
小野茂通

吉田の老の老をたよりしやうと都の吉田の福と  
小野茂通

牛頭天王御

神明八幡宮共よ所城内あり云々  
例年六月十五日

放花炮

六月十四日夜吉田本町上馬場馬町の両町を揚し高十三間巾三間これと  
立物とよはれしは花炮あり火の勢はなほ大釜を覆ひしを  
其外町々の花炮数あり見おのり

聖十五日祭式

吉田五箇の寺院より飾山と出に至て古雅の袴  
直衣大刀依佩馬の上又十六人の鹿原にて計六人柿の葉絶小のけ  
練のういどり馬上又十六人の鹿原にて計六人柿の葉絶小のけ  
帽子と冠り馬の上又十六人の鹿原にて計六人柿の葉絶小のけ  
駿射笠小編笠湯衣と着し背小帯を挿し同小のけ  
ひ左右は編笠湯衣と着し背小帯を挿し同小のけ  
袋の重忠てよの領至の技補の前は至り馬の上より禮とす  
袋の重忠てよの領至の技補の前は至り馬の上より禮とす

天皇といふ人何併めては一日日本一の荒神

あらしの橋本遠見坂名所くの花と云ふといふ  
されしは伊弉諾伊弉册の神代巻の神代巻の神代巻の神代巻  
罪を素尊と帰し十坐の置戸と云ふは神代巻の神代巻の神代巻  
人の形を依りて興むる形代撫物より出たりは幸い東屋の巻も云々



六月十五日  
每来



三州  
吉田  
祭天王



駿府  
鬼印馬

煙巖山鳳來寺勝岳院

三洲設樂郡門谷村の山巖あり  
天名真言の二派あり

本尊薬師佛

長き寸八寸八分  
十二神將  
諸堂の上方あり  
別當職天台學頭松高院

神祖御宮

諸堂の上方あり  
別當職天台學頭松高院

拾き  
この中も小さる櫻は色えん人の困りあり

紀風  
の神は伊代よりあひまはる今心もど  
あはれあり

送爽鳩子方之三河  
憶君奉使向三河路入函關  
杜若水寒芳州歇芙蓉峰巒白雲多  
吹笙幾訪鳳來寺置酒誰聽魚麗歌  
聞說登臨名蹟徧嵩山少室定如何

鎮守三社権現

中央熊野権現左山王地主権現右白山権現  
利修仙人の弟子心月坊祐仙勸請

六所護法神

利修仙人百海園より序朝の時六人の護法神  
香華依捧く隨從

開基利修仙人堂

此堂の飛彈の迹を造れり  
常行堂  
本尊の持陀伴此堂の長久房盛長三の園七行堂

三層塔

源頼朝の建立権原新時が造り  
常行堂の塔と背の姿を造替あり

鏡堂

護摩堂の傍あり  
諸願の由縁あり

八幡宮

伊勢兩太神宮  
辨賊天祠  
天神祠

昆沙門堂

一王子二王子  
荒神祠  
弘法大師堂  
元三大師堂

鐘樓

樓門の傍あり  
諸堂の傍あり

名跡題目石

樓門の傍あり  
諸願の由縁あり

八王子

生土神  
妙法龍

奥院

白山権現不動尊  
六本杉

煙巖山

本堂の西より  
巖は立界あり

勝岳院

本堂の乾小當り  
利修仙人の像あり

瑠璃山

奥院の壺と埋り  
利修仙人の像あり

隱水

西谷あり  
利修仙人の加持水  
旱天霖雨は増減あり

高座石

巫女石

俱ま本堂より乾の方より利修仙人山神の招請

巫女天降りて聽聞は仙人説法しゆ所と為座石といひ巫女

尼行道

仙人の身は七七日遠見れども仙人

尼行道の身は七七日遠見れども仙人

谷尻尼谷といひまをりて

行者帰 當山の峰より体の方へ

積橋 高山のふもとありて

勅使 狐岐せり

篠谷 南の方より

山伏堂 馬背 牛鼻

ま嵩山 推古天皇の勅願

攝政の時之河の園司奏して

は西番之其高四十九丈圍二十九尋

虚洞小棲其西の枝小累を棲

して啼聲嘯々たり

献む又其洞中より併像あり

金光ありと奏ひ

蓋階下神皇の紀と聞

後代龍去り精舎と成

一様伐て業師日光月光

是之皇太子驪馬馳

ち子傳あり故に業師と稱

と勅使として仙人を召

ありて加持となり

勅圓のりるに言て

親まされば身をりて

願心あり

國家安泰

併堂を建て

尊經

親まされば身をりて

願心あり

國家安泰

併堂を建て

尊經

と安置せん事あり奉來比願を乞と奏一々れを感ありて三年造匠其後  
光明皇后は神業にて風來寺に願を賜ふ文青赤黒の三鬼ありて常小利修仙ふ  
隨從せり仙人入定の時に三鬼の首を茶師堂の下に埋ま高山乃守護神とて  
元和年中本堂炎上の後造を折朽石積りてこれに出入りて宿者利修仙の許へ  
三鬼首とて入ると又入のふく封して藏め埋りて宿者利修仙の許へ  
勅使公宣卿登山の折りて本宮嶽(身)より其時老翁召れ導引して勅使  
松高山へ送りて公宣卿秘すよ

毛務や海山のまのこは似く浪やとさげば松風の音

本宮嶽の神傳ゆもい事と記さし毎山月二十日に若菜樂と祝ひ獅子舞  
田樂修正會は節捧振もい三鬼の由縁とて折開山利修仙人原山城園二葉  
里賀辰岡賀都岐麻呂の子に 欽明天皇紀三十一年庚寅四月七日誕生利修  
童子と号く旅長の後忽然とく山嶺より爰中に五疊山の長狀仙人  
ふ謂し千葉のまを授けりゆふ其峯松千壽峯と號き其後万壽松

保ちたるより万壽松と云所今あり 陽成帝元慶二年利修仙人二百九載  
の時勝岳の深窟ふ入定し高本老氏の出世と俟とて岩窟ふ池水あり今に  
時々振鈴の音幽小愛ゆるさふこれ武陵山人桃花源小遊ふ似たりまろ江府此峯  
あふ清きるち多く秋葉山より登りて山路八里と登てまふ到る京師より清  
まろま御油の驛北端より入り高山門あまで八里餘あり 御油 上宿 八幡  
篠田 大木 半尺町 長山 小圃 柿木 東上 中村 御古屋 権現  
野田 新城 此れがやで 妙里半十寸 宗高 志多羅 大壺 岩度 権現  
反波 新向 下々 徳井田 大見 銭龜 鳳來寺門 あふ小門谷町とく  
龍川 龍川のよき 追分 門谷 鳳來寺の麓かて 旅舎あり  
旅泊ありそれより橋より石階松登る事約く九町ありそ  
町毎石標ありた右の老杉翁壽して旭の出る事迷々る階底のあ側  
ゆ僧房連りて天台真言の二流あり一念三千此諸法を脱し胎金兩部の鶏  
磨會の具一次第小光れの寶閣金塔神窟併龍玲瓏して壯觀とてり  
直は王維の件と好し山水絶勝する清凉寺といへて冬州は名と傳言  
第一の名刹なり



ヒクキ

鳳來寺





石巻神社

八名郡神郷村ふみり吉田より吉里録赤山二川の少延喜式内  
例系正月十五日九月一六日

祭神大己貴命

風土記云三河國八名郡美和神社圭田五十束  
所祭大己貴命

奉圭田加神禮有神家巫家云蓋此社乎文德實  
録云仁壽元年十月授冬河國石經神從五位下  
每業正月十五日半載占の神事あり神みそて粥と煮く十八かの給いけり  
粥の釜へ入其釜の中穀粒の入ささるあく其年禱穀の豊凶とけり  
穀占の神事ハ穀肉揚は泉の向中もあへり内牧正神社揚明治上郡  
安満社等や名高し

禰占もめてくくく大根引

吉田

窟觀音

吉田より吉里半康大岩村山向あり  
龜見山窟堂と號禪宗

本尊千手觀音

垂光麻印

行基の他長き寺天平二年造まとい初め石窟の安  
堂内の額施無畏と書き寛政六年播州姫路酒井侯  
自持して大巖堂後ふり高り八丈幅廿丈餘岩形龜ふり故ふ山號  
喜捨に  
紅中谷中より雲進も  
遠坊より祥ふさゆり  
白濁を美中をき里右の方小田原山遙ふりぬ

二川

二川在詠  
関をぬり里のふりあはされりりりはらんるゆ中  
光彦卿  
清人志



志島や  
 白比容  
 去来



藤江

巖窟  
 観る



遠燬川 二川の東にあり三州遠州の國境に

猿馬場 燬川より遠を右原山に於て小松多し風俗の地は此の方より

高十丈余中二十丈許猿馬場の茶店に柏餅を賣るなり

海老の松蔭をゆく遠をせしふ東の山よりて富士の山に白く

白妙の雪の白を海よりちるひきまをぬふ下はふりあつる

新とての須賀を書へ一賀の助を接須賀總須賀もはれふ日下は宿

初ハ汐見坂の下あり之縁年中津濤しては所へ移されし今も

白須賀といふ所あり之縁年中津濤しては所へ移されし今も

今も此の縁年中津濤しては所へ移されし今も

ねぐげのいづ海にけて白霞のみを別れし出る船人

白霞の東の段路に下小倉海と云れは汐見坂の名あり

遠州七十五里の大淵畔に渡り清水三里の傍あり諸の松と縁

みまは汐見坂の眺をみるなり

富士見松 汐見坂の眺をみるなり

潮見坂に吹く風の浪花をちるらん

今をちる糸をひらねる遠見坂よりちるれふとをきて

言はれぬ遠見坂の眺をみるなり

天地豈識幾層瀾舒卷古人方寸端

波浪雲天俱色東南溟海夏無山

聖門有街人何敢潮見坂頭停馬看

高師山 高志或ハ高石と書ハ遠江記云白霞より發せし山也

新勅 海色の眺を旅中の

積古 老れぬ杖をもちて歩きて高師の山の麓を鳴那る

風雅 於此一入てて我ゆゑたつ山ふれとふめらる海の松

新千 於此の高師の山麓より海を吹くは浦風をふく

於此の山麓より海を吹くは浦風をふく



新橋十

昔年七月日新なる紙もたう山ふ泊やさうゆりま

前中納言 雅房

新橋

深路よりあふれを高師山峯まで同一松風をふく

津守因冬

同

秋風をよき月の高師山峯の浪は幸哉まゆり

寂蓮法師

又本

高師山をゆくはたの根を以て人あはてそ志は

氏部為家

同

秋風を淡々とゆるる友船を高師の山の松をり

西行法師

同

風をけ高師の山は白波のやうにゆるりしと作らるらん

慈鎮和尚

同

高師山松をゆくこの松風をふくの里の浪浪の聲

雅有

同

高師山をゆくはたの根を以て人あはてそ志は

為家

東関紀行

冬河遠江の隈ふ高師の山と安ゆらり岸に秋のやぶに谷川のるれ

源光行

同

あて岩波の波まじりしと作らるらん

源光行

十二日

あつ山をゆくはたの根を以て人あはてそ志は

源光行

同

あつ山をゆくはたの根を以て人あはてそ志は

源光行

同

あつ山をゆくはたの根を以て人あはてそ志は

源光行

つたため波もたうは淡影らん袖のみをその風をそはゆて

源光行

橋本

白菅より重許東むむりしと宿駈あり

たう山松をゆくはたの根を以て人あはてそ志は

五條河原

紀行

あつ山をゆくはたの根を以て人あはてそ志は

増基法師

女谷

橋本小の建久元年右大将頼朝の上落し

あつ山をゆくはたの根を以て人あはてそ志は

橋本の

遊女

あつ山をゆくはたの根を以て人あはてそ志は

群茶有

東鑑

あつ山をゆくはたの根を以て人あはてそ志は

有御連歌

同書

あつ山をゆくはたの根を以て人あはてそ志は

同書

同書

あつ山をゆくはたの根を以て人あはてそ志は

同書

同書

あつ山をゆくはたの根を以て人あはてそ志は

同書

同書

あつ山をゆくはたの根を以て人あはてそ志は

同書

同書

あつ山をゆくはたの根を以て人あはてそ志は

同書

同書

あつ山をゆくはたの根を以て人あはてそ志は

同書

同書

あつ山をゆくはたの根を以て人あはてそ志は

同書

同書

あつ山をゆくはたの根を以て人あはてそ志は

同書

花音町今橋中東福寺の東に  
非人小舟あり今橋の東に  
風爐の舟 橋本長者の屋敷にあり頼利は宿庫の時湯舟あり  
名水あり今橋本の村中民家の庭にあり今橋の東に

南避彦神社 延喜式内名神大橋本村にあり今橋下瀬訪明神あり  
文德實録云嘉祥三年秋八月戊申詔遠江國濱名郡  
角避彦社列官社先是彼國奏言此神叢社暇時大  
湖湖水所流舉土頼利湖有一口開塞無常湖口塞  
則民被水害湖口開則民致豊穰或開或塞神實爲  
乏加崇典爲民祈利從之

遠湖振振記云角避比古神社大湖の口開塞あり是  
則神のありしと文德の神記に記せり是の神塞ありし  
紅葉寺 橋本の西にあり中江足利義親公富士紀行に記す入來  
ありて風氣を愛し是の寺に賞し神ありし名を以て長後願廢  
寺に依り中寺といふ傍再建し今中寺といふ名ありおま寺の西に茂  
山氏といふむの領地を築あり又東福寺又神の祠あり是乃此  
うらうら内山村あり麻の作今田圃とあり鯉田といふ  
濱名川 今切ありてより廢人古ハ遠湖より流れ白菱の東岸の傍より  
海に入今ハ田とあり橋と成又此のありて首の川の形大畧小畧あり  
ま本

濱名川 濱名川の傍にありては松糸めり海士の傍りあり  
中務々  
濱名川の夕夜をむと山風ふ高所の沖もあれはさるる  
山宰相

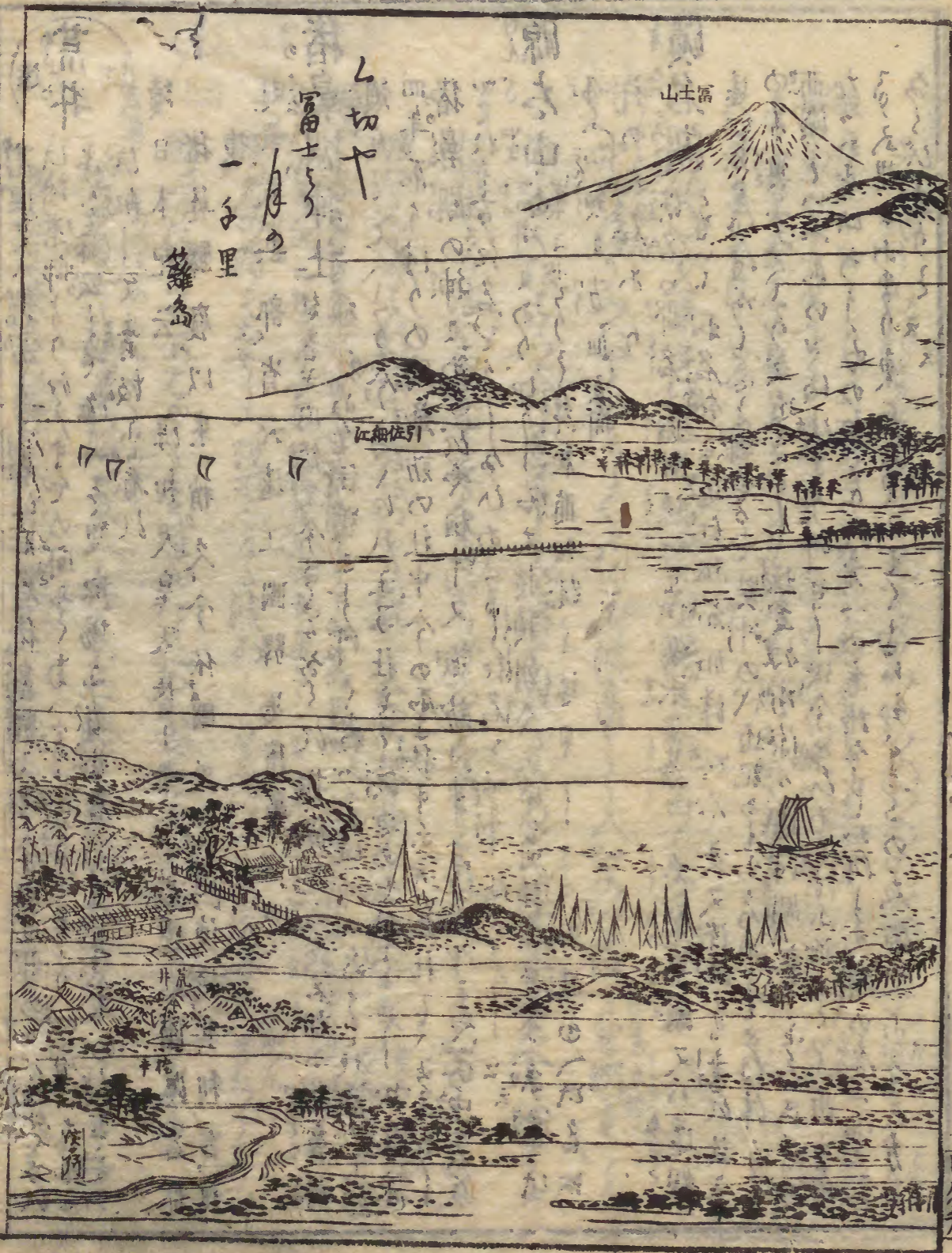
父の見た遠江の  
國守より年々  
後下野の守りて  
濱名川の傍り  
みくもみたる



東海の  
橋本  
長者  
の  
屋敷  
に  
あり  
今  
橋  
の  
東  
に







拾遺中

旁をゆく候名の橋たえんくちあつたれりる松のむま

定家

同

新下り下りありあかき候名は橋たえんくの夕ぐさ

後拾

引船の舟がまへつたりてのち前大傍に松鎮の舟入りてあり

前史將頼朝

十六夜日記

を海にけしとるるに松はのちとつあつてあはくともびちりしめ

あのをせよしむる岩たえんくちあつたれり

のちあつたれりる松のむまを松のむまを神ふんあれて

河仲

光の記

橋本とつたれりは美ねれはつたりしむる景氣して心喜

こし南の海湖あり漁舟波よりよ少の湖ありあり人あなよ

つらむれりそのあつてふ洲遠くきし松たえんくちあつたれり

あつたりふやまふねのひさ波のきし松たえんくちあつたれり

あつたりふやまふねのひさ波のきし松たえんくちあつたれり

あつたりふやまふねのひさ波のきし松たえんくちあつたれり

あつたりふやまふねのひさ波のきし松たえんくちあつたれり

先行

荒井

荒井又ハ新居トモ書ク旧名猪鼻驛ト書ク今ノ荒井ノハ...

猪鼻驛廢以來補久今依國司言遣使檢其利害興...

猪鼻湖神社

延喜式内鎮坐今ノ...

四年不ウハリノ時淑訪ノ社中今ノ...

源左山

源左山頭ノ...

濱名湖

濱名湖ノ...

西湖ノ...

日本釋...

振裾記...

ひのけ...

物も...

坂のえ...

浪名...

あつ...

今又浪名...



寶樹の菴

赤岩



高師山



橋本谷の橋のつらより行々たり也これを跡まきなる夢いさく  
 るぞり松の影下へ修すま松の枝のむむとす地城川をむむとす  
 湖上遙ふうのんごるもの志いぬの顔お老より西ふのとる六湖海をく  
 をびよりて雲の浮き一風のまきこにけいぬのうたのむむも是も  
 おのづかれも湖海の淡鹹い氣味こそなり

高師山志末てこれに淡松の一も遠地濱の入海

憂歌

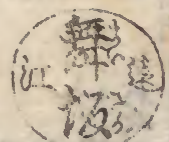
むしい舞浜のやよりより淡名橋の橋まてふはははみよりの松生はるきあうみ地  
 海とるてく中一編の大路ありとてくへより古老の傳よ云むし橋本東福寺  
 たり本願寺舞浜の町へ齊まゆさしゆとつり神仙傳ふつる東海社云ふ  
 幸田あり幸田ありとていひあつりの幸田あり  
 今切 後土門院所宇明應八年六月十日大地震一湖と潮のあつて  
 後柏原院所宇正七年八月廿七日際の日出山崩れ川堰もれ舞  
 坂の原松破り海淵とる又其後元禄年中地震津浪ありて海上  
 のうく風強くしと波高く渡船の災とあれを宝永年中官家より  
 有司あり今切の波頭と松がの杭を打ち逆流をせんとせんと  
 舞坂の方よりたへ海中半道の血波戸と築きとく渡船の風  
 波を穏よりゆき松とめ久自生ありしむ  
 内辰紀行 遠州荒井の傍より奥の山五里より海とありと大船も出んむらひ

羅山子









海防の事書しつゝあつての事... 荒井より海防七十五里... 遠江難と云ふ

ちり錦花繡草花... 七の男不松... 本像は観音なり... うちふあふあ... まつこれが...

あり願書とおほし... 海の水...

馬郡観音堂

兼坂の東馬郡村あり上人... 長...

音羽松

海道の... 松...

あま林二ツ堂

本尊... 伊場村...

賀茂祠

高野山... 賀茂...

甲江山鴨江寺

本尊... 鴨江...

本尊聖観音


御影堂... 鐘樓塔...

二十三所... 五智如来... 真言院... 西宝院... 東の方...

後宮  
 侍之入平  
 心満の地色此  
 秋花  
 女子内親王



引馬  
 甲  
 賀  
 喜  
 風

金門畫文  
 狩野繪殿助藤原永俊  


遠松

見附まで四里八町為旅の事... 遠松のつらねはよみ来く人々をにびりてとてふ

波のきか風のたよりふたふた言て指さるる遠松のほや

遠松のほれもさ色と秋とを吹流し風との声さびる

此地神君建幕營龍地陣勢幾精兵

威風遺韻入松去瀆畔猶呼千歳聲

引馬野 引馬野爾仁保布榛原入亂衣爾保波勢多鼻能知師爾

大宅二年太上天皇... 引馬野の事

引馬野の事... 引馬野の事

引馬野の事... 引馬野の事

引馬野の事... 引馬野の事

引馬野の事... 引馬野の事

引馬野の事... 引馬野の事

引馬野の事... 引馬野の事

引馬野の事... 引馬野の事

引馬野の事... 引馬野の事

引馬野の事... 引馬野の事

引馬野の事... 引馬野の事

引馬野の事... 引馬野の事

引馬野の事... 引馬野の事

引馬野の事... 引馬野の事

引馬野の事... 引馬野の事

引馬野の事... 引馬野の事

引馬野の事... 引馬野の事

引馬野の事... 引馬野の事

引馬野の事... 引馬野の事

引馬野の事... 引馬野の事

引馬野の事... 引馬野の事

引馬野の事... 引馬野の事

引馬野の事... 引馬野の事

引馬野の事... 引馬野の事

引馬野の事... 引馬野の事

引馬野の事... 引馬野の事

引馬野の事... 引馬野の事

引馬野の事... 引馬野の事

引馬野の事... 引馬野の事

引馬野の事... 引馬野の事

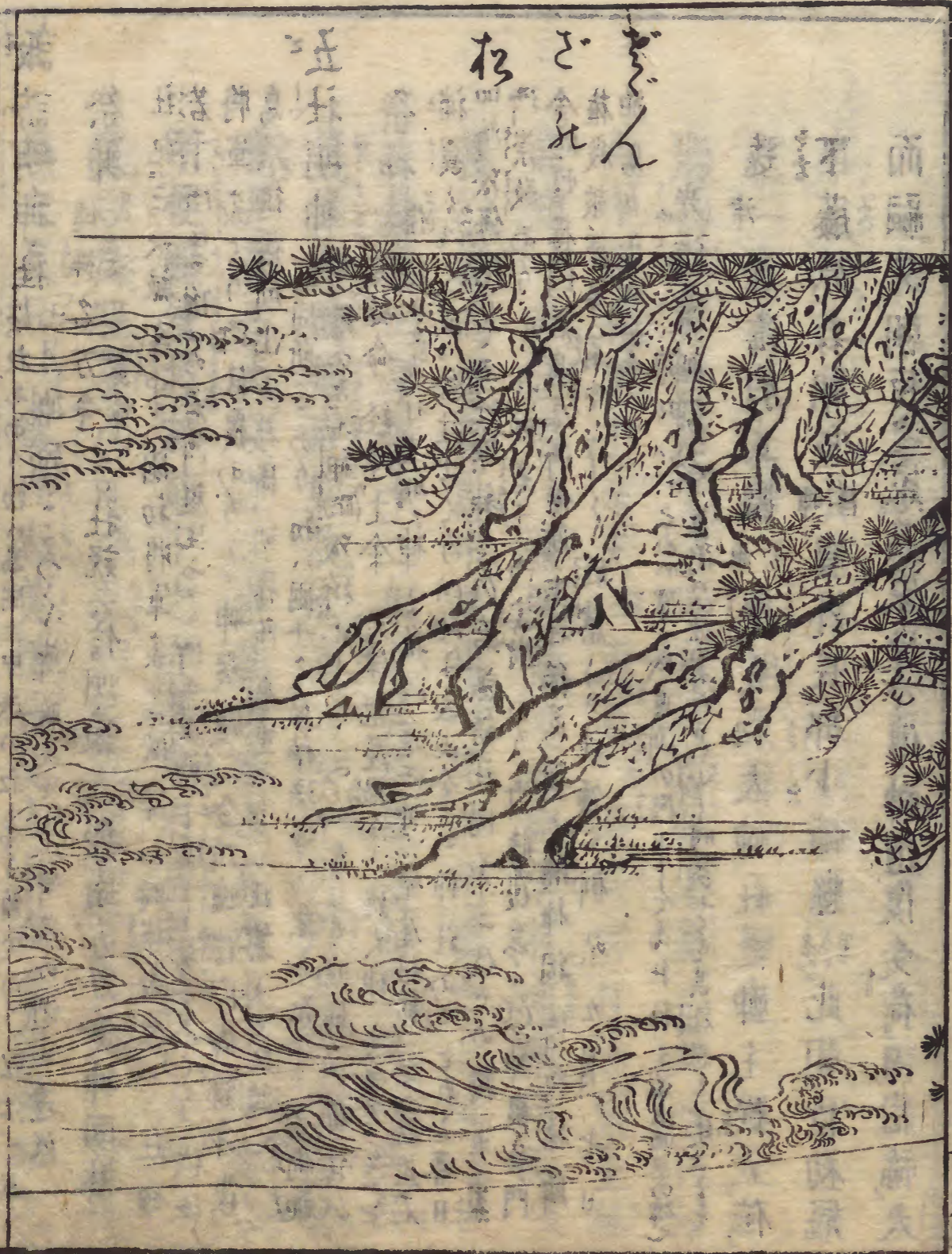
引馬野の事... 引馬野の事

引馬野の事... 引馬野の事

引馬野の事... 引馬野の事

引馬野の事... 引馬野の事

引馬野の事... 引馬野の事



諏訪明神社 淡路松平初高岡上中治の松平鎮守あり弘治二年七月神詔よりく神詔天子先賢の例より遷久

祭神 健御名方命 八坂乃賣命。社説云信州諏方郡南方乃美神同躰

社記云永祿年中一榎初將軍家遷城八所の時崇敬厚く社領若干所寄附あり君所誕生より所生土神と讀み其代々將軍家より所修葺あり神殿唐門金燈燭臺御隨身朱鳥居御供所山王社御祈禱所嚴重しく社領より社領

五社明神社

同所あり初國士久保依波守の末子我中より武術鍛錬の爲に神武天皇の御孫より

祭神 舞姫命 経津主命 天津兒屋根命 姫大神 太皇太后

補翼又或云往古より此地より太皇太后の神社ありこれより春日所崇敬あり社領若干所寄附あり所修葺多し神殿唐門金燈燭臺石鳥居祈禱所末社縮糸祠又滿神祠所行禱所權殿鼓樓等嚴重しく社領より社領九月七日神馬五疋派敷

光海靈神碑銘 これに實義真淵の撰ありて為社神主兼暉昌の碑也真淵は此地の在りて時又の如く其謝恩は建つてを

遠津 淡海引馬縣 坐 五乃大神 社之神主從五位

下藤原森朝臣 暉昌 負外民部少輔懸 多 此朝臣初冠

而嗣父朝臣之家其家世々傳神道復受荷田宿祢大

人之誨也日獻嚴饌捧嚴幣自太諄詞奏神遊許多

事悉依上世而其儀雖他大祠 波 有不及是朝臣功

之一也夫此大神 波 奉爾東都 乃 二御世 乃 鎮天下

賜御軍大君始生引馬城故為御產靈大神也下大

命千尋榜綱打延天 津 真量 爾 量成宮柱太繁垂椽

高知 乃 奉齋賜 波 雖然積年天御蔭將壞朝臣恐 美

畏 美 泰向東都訟申憂申 乃 始于元祿十七年 乃 七

十餘度 乃 享保十二年七月給黃金而令修造其經

營多年而修成如故延享二年九月以古式奉遷宮

竟是朝臣大功之二也朝臣家本在市中 乃 每齋事

不便雖欲移於社下之丘其地有甚斜峨引五百 都

磐 乃 為垣累八百 都 土 乃 得成 乃 遂作出居則坐觀富自

嶺之夏日 乃 雪時人羨旆長復大人矣是朝臣功之

三也。朝臣貌開雅有大度。内懷古質。外長顯事。即有神道者也。又多能雜伎。揚他之能。平生之意如此矣。宝曆二年六月十四日。朝臣年六十。八爾患卒。哀戚者及遠國。葬其社之背面。清水谷神祇大副。上朝臣。益光海靈神。訓云。神那提理。是擬所作。国奇。龜之功也。真淵因本貫国。少時受訓如父。悲慕。奈止哉。其嗣。乃朝臣為壽。并其妻繁子。亦於予善。故需墓誌。爾故人其人也。宜以皇朝之言。予敢不可默。徒取所有事。而勒焉。即唸。爾騰保門。向不珉。烏奈毘氏。羅斯。預例。屢之。邏哆麼。登宝畿。與爾寧。嗚呵。哦佐。無刀。預例。屢之。邏哆麼。

明和四年五月 賀茂岡部真淵撰  
此碑公載岡部氏の古體と賞せんを考るは人の万葉考勢語古意等と見しむるに考ふる事其妙多し其れを其考の強く又一家の意の意味ありと顧く詔察人と歎くの語ありまの在り岡部英雄の一人なり

三方原

三方原 牧場多とて三方の系とて呼ばれし今八里の州にあり

大安寺

大安寺 漢松看曲あり 禪宗曹洞より 大慶より 續日本紀延

行龕山龍禪寺

行龕山龍禪寺 漢松の東麓禪寺村あり 古義真言宗 一

奉導觀世音

奉導觀世音 大同元年 奉導海沖より出現 其の以 諸堂建立 後又正

大師堂 終堂 鐘樓 金併地蔵

大師堂 終堂 鐘樓 金併地蔵 水神祠 攝待所 等 併殿のあり

近衛龍山公殘亭

近衛龍山公殘亭 満寺金光院あり 近衛家 関白晴嗣公又龍山公のあり

金光院 一乘坊 地藏院 圓覺坊

金光院 一乘坊 地藏院 圓覺坊 行泉坊 爲ありては 爲の大刹なり

楓々松

楓々松 夷駒拾遺云 燈口村の田圃の中は 松林あり 一株松あり 以 松の



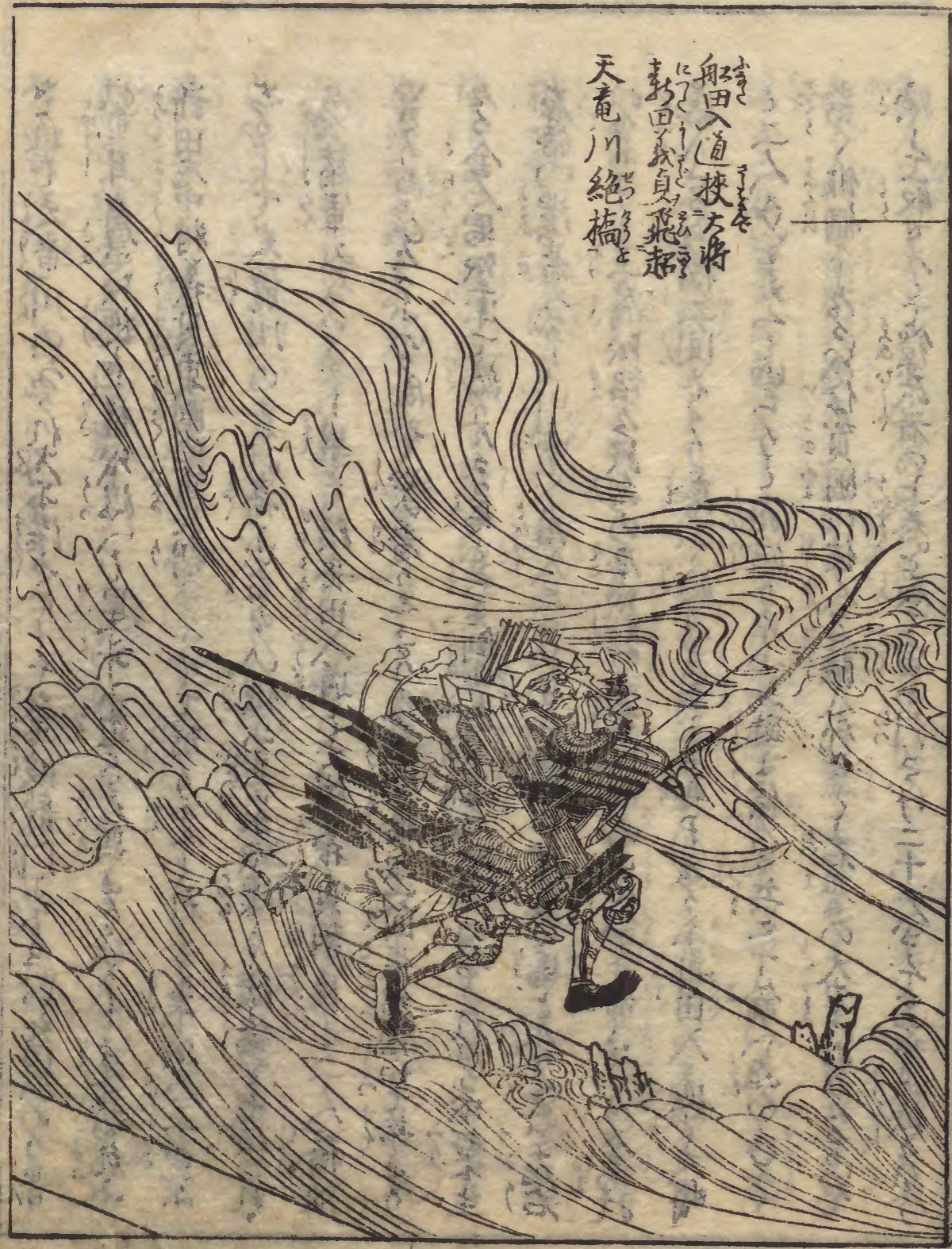


天龍川



石田  
友行

舟  
田  
道  
授  
方  
將  
新  
田  
義  
貞  
飛  
超  
天  
龍  
川  
絶  
橋



されど大龍川のあがれお浩々として驚波龍門ふり其の勢はひかり晋  
け重耳の壁に投じ槎は浮へん星斗の辺を又異なりし一建武の丸ふ  
新田元中將義貞東國の軍に利ありて帰りてしし一平記ふ  
あるて大龍川の東に宿ふ者あり俄に在家に壊れ橋を壊され  
る諸軍みなついで果て後舟田入道と大將義貞朝臣と二人橋を  
ついでひたすいふ所を心者よりなん浮橋は二間張繩切て捨り  
る舎人馬次牽て渡りたる馬と若く倒れ入浮ぬ沈むるあられなる粟生  
左衛門濃着あが川中へ飛入二町をり遊ばはて馬と舎人とを右  
にひたす上肩に抱えおの座に静ふ歩て向の岸へ七着りたる馬は  
落入る附橋二間をり落れ渡りたるも毎にたる舟田入道と大將  
と二人とをえりゆらりと飛渡りゆ其跡は候る兵二十餘人飛のひく  
將く個々なるは伊賀國の住人名張八郎と名譽の大力ありたるそ  
後に取せんて鎧武者の上巻を取て宙を引さげ二十人中へは投ぎたる

武人強く有るは左の脇に控えたり狭く一丈餘落る橋はゆらりと  
飛ぶ向の橋桁は踏むる踏所が動いば減り逃げゆらりたる諸軍勢  
遙かされ見えてありありはれ凡丈の態も服は大将といひの者若  
とひいづれば捨下とも覺り糸も時の運や軍小お負ひひつて  
うしてとて云ぬ人ごぼりたるれと記し又梅松論小義貞大龍ふ  
橋のけしむせお渡りて後都て故向ふ附小坊を川と後ふ高て飛ぶハ退  
ほじると上韜の謀めて橋を切ハ武略の心腹より故とても身く渡り  
橋は切落して故小急な難なれと周章ふとめりると云せん事  
口惜しがごとく橋を堅固せよとて渡られし事なるといふこれ  
らと考ふ小義貞ハ武畧の人かして関羽が賢豪小張飛が雄力と  
兼たり 後醍醐帝の運運やばいありあん遂にや  
新田楠の豪傑魁とて七びゆる事々みぬあれ夫の  
る勢つ所ととあられたる



池田宿

古人の紀行多し池田宿ありて

此れこの里やの成と成ふなりや池田にあり名なれと

桑葎通賢

①なる池田の里は氏までもまみえ池田代ふのありれと

克孝法印

英濃の青墓遠江の池田駿河の熱河も長者遊君ありてじり

洗還の武士將侍は少年鞍馬松門はるき千金小笑と買とこをかれ

あ江口乃津やと再たとりけん天路大店のりされ湯谷も池田乃

宿のひまにめゆる事少くけれあ今い宿天龍の東北端ふ

形をう残すて終身小氏もワう次守りく居たりたる天竜小

夫終としてのありたるが新田在中將の尊氏と歎ひ負て宅られ

る附浮橋の桁はるるる飛越られたるもよこの事江都が流

捷の色々も流松の我をも細流小天龍の事と今ぞいつあり

池田驛長本倡家處子嬋娟天下誇  
腰似楚王宮裏柳面如巫女廟前花  
古今不盡洪河水淵瀨相移兩岸沙  
治乱興亡非我事征鞍暫憩且嘗茶

羅山

重衡海道下

漢名の橋と渡りあを松の梢小風さく入江小噪ぐ波の音さうと

旅と物憂ふ心は盡さぬ間とれ池田の宿も着ぬ心かの宿は長

者悠遊と侍従の許小其後と之位宿せられ侍従之位中將殿

以見きて日本と侍小思ふ事ありぬ人の多かり所入るや

ゆふ年の不思議さうと一首の歌はなる

旅は免はせ給れ小命のいせさ小故にやふ恋しやん

熊登侍従

ふささといふ一旅の京都終のまじりたる旅

三位中將

や有あ中將権原公と叔と只今れ飲のわいいうる老を疑

しくも仕るるものやと宣ふの常時畏く申する老さい極

志存しめされいのまをあれあを八海の大屋殿のまじり國の守

あは後らせぬひと附めされまのうせと脚最愛ひひ小老母故つて

痛らるる京都より所賜と申上りぬる怒らされを願ひはは初老をん

いふせ京都は美とあはれとあれ一吾妻の花やあらん

とく名お仕を賜と給はゆりてりひひ海道一の名人也  
申なる都次也日教経を孫生の半とて其既小暮時を遠山  
の花の残の香のつんえく浦々流々其流を幾方其末の末也と云  
ふははあめふもと云ふといふは名業其方見るとと宣とて

熊野侍従古蹟

池田宿 舊大龍上湯谷 墳 殘 林 藪 中  
可憫 宗 盛 綴 聲 色 汚 濁 水 共 相 從  
山 井 關 齊

熊野墳

建久九年五月三日没す  
熊野 本堂の側あり 紫石の塔婆

同老母墳

建久元年四月三日没す  
同所あり 根鏡石の塔婆

侍女薨墳

建久元年四月三日没す  
池田宿あり 南を里許

されと池田の長とて今これを陣宿のゆり仁安の頃い長者子  
と名付之立の義也とありしを其用俗究窮とて其名は熊野

笑子金の侍も今いむりて鬼火をよまされよましく枯體朝

あゝ小睡く秋葉墓畔小庵の一葉落の二三他の上人真教

困めぐる時さくに洵を幾登が菩提と申ひる及次流のちとあれと池

田道場よとありしはちの付室小塔川氏の書れ一葉落の端は幾傳あり

中泉

池田の南にありしを里餘ありむり少く行今中泉ありと云ふ

八幡宮

池田の南にありしを里餘ありむり少く行今中泉ありと云ふ

櫻ヶ池

池田の南にありしを里餘ありむり少く行今中泉ありと云ふ

傳ふ云むり比叡山肥後の阿闍梨源皇とて其加藤の三塔無双の學

者之墨谷法然上人の師ふりて其源の字は賜も源皇とて其末の末也と云

阿闍梨はく業はる小伴道の淵を我一の修めたる悟る事ありと云

弥勒其出之派依て三會其曉を期とて一はれをいふ今其保龍身よ

あくるに於是才子が諸國を下り龍は棲所をんせりむに東國は使者  
並樓は註記といふ僧歸り來つて申すは遠江國美原莊に櫻が池といふ  
ありありの蒼海海洋々として少の青山峩々たり其間小池水以湛く淵底  
際あり且澄澄あり龍蛇の棲むは靈法を弔は所の徳寺實定卿は  
所領こと申す河國梨ふれと夢く徳寺の我權教に争う時ゆらんそ  
役をのり申すけ成後座禪して一泊の水を掌の中小移り雨風吹起り  
雲小糸して遠江櫻が池小到り入定しぬをれを波瀾とまきまきと驟雨車  
壯のゆく雷電霹靂して村邑動揺は其後源空上人は國ふむとけ池  
頭小跡の師を別と嘆く恩謝の為孫陀經を誦し稱名念佛しぬを  
法同しと大慈の形と形れ池上頭を揚て落涙の体は源空上人も苦ふ  
涙と流し師を別と嘆く恩謝の為孫陀經を誦し稱名念佛しぬを  
いは龍身交して源皇河國梨と成り少小敏方乃末の淨物浴り  
まじり又湯の下あぞ入ぬと云傳へり

或土俗回て云法然上人は淨土一宗は祖ふして宗風海内を充滿せり入り六百  
餘年其後も貴賤かの教とて淨土往生は決定も源皇河國梨の伴  
道修乃の師の畜身と成て苦惱し私く之會は曉以待ぬ其難行と云り  
て尋身成佛は勸えぬるを堂しく龍體小對話してぬれぬ云ふ  
對て云佛道小大素小素りり又小素小縁覺聲聞の二教あり縁覺は十二  
因縁を觀して得道は聲聞の四諦を觀して得道は國梨の法縁縁に  
基く大素教ふして成佛の因を成と見限りて姑龍身は成て龍善之  
會は曉以すのこれと般若獨覺行といふ大婆沙論俱舍論成實論四教儀  
等ふてなり又の國梨の智識たる事凡愚の知るさ小わは法然上人  
強りと嫌ひのふ非は修行の成進死を察して未だの機と鑑く弘通しぬ  
淨土門に兩師俱ふ權化の再來あるを愚俗の身より龍體ふく之由は  
能辨せぬふのふは慈悲僧正の及ぶ魔界ふく生と度まは誓願あり  
慈覺大師は石隱山の九頭の竜と現下弘法大師の眞言秘教とありて

優利伽羅龍と現く觀音薩埵を二十三の化身あり行する大悲の方便

小舟にばといきとあり法然上人師弟共約められしに到りては誓約あり

がたあるなり凡慮のゆえ所よありと誓られしとす一と

今の浦

八幡宮の邊にありあり今この浦の古跡なり

掉さへは浦の西を渡りしれは塩海にありよりさきとさきと

多かり橋本の宿をせしむるこの浦のありありは是れなり

浪れきと松れありし今この浦のありありは是れなり

見附

おそ後一のこころにありの井あり

惟る来てはけの里とすれははる旅路をせしむる

今身とたれかからんともありしはけの里の名をいとし

やけの里とすれははる旅路をせしむる

當面見來見付臺邊繫馬立裴御

二香野橋

金札鶴

熊野權現祠

伊原といふありありの樓門あり社一字見入る

この浦のありありは是れなり

半里許ありありの山ありあり

の古城ありありの山ありあり

道あり山ありありの山ありあり

袋井

御川まであり拾六町土人云む



遠州 櫻池



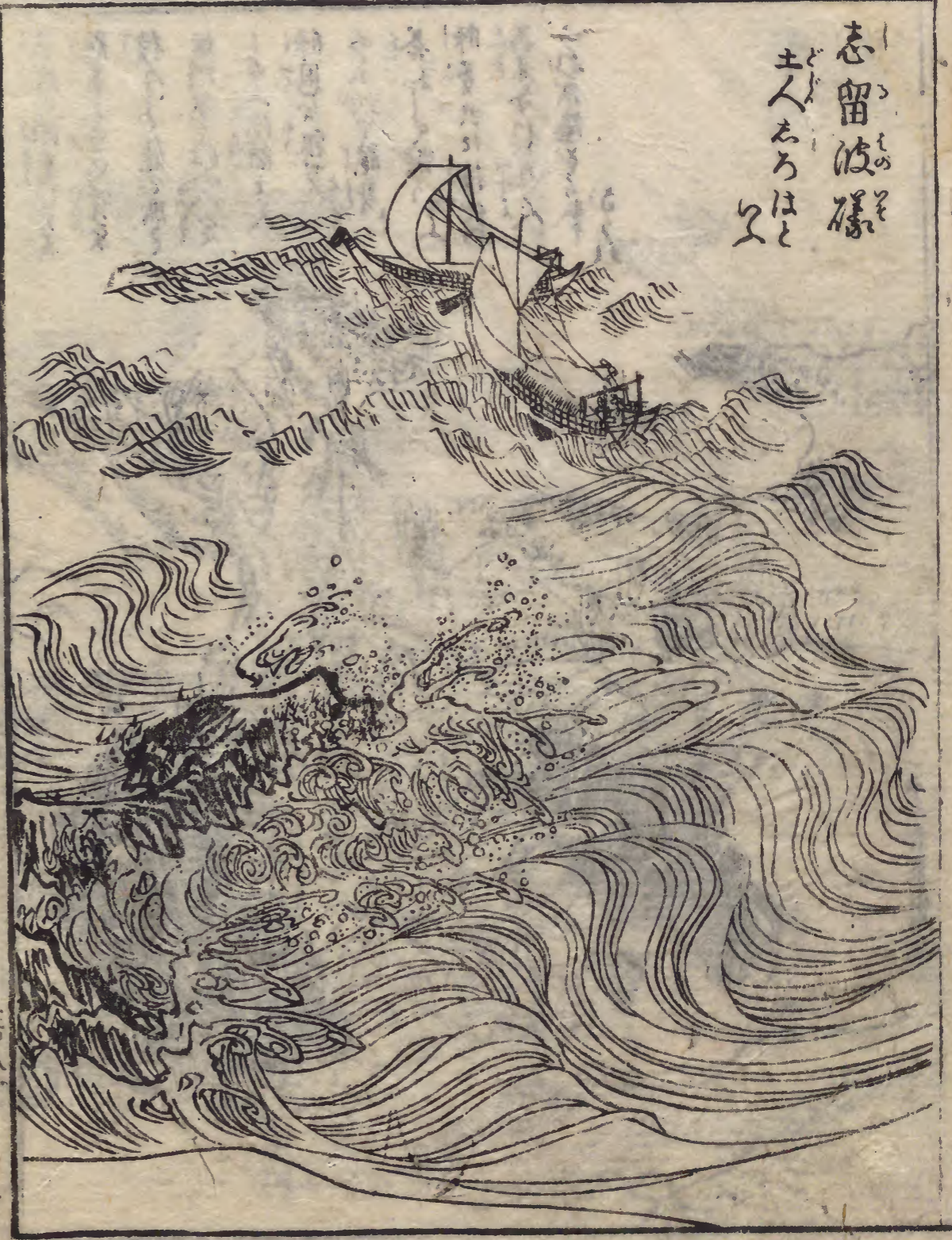
三十九

良嶽の源皇の御孫  
龍宮の會の時  
待んて龍成り  
遠州櫻池に入定  
一法然上人  
師恩を報ぜん  
のふりに龍身と  
答わくは  
師を共に推化の  
再来なりん人  
とわらふは  
ふん



遠州香泉源四回

志留波様  
土人志ろはと  
又



三六

万葉 山名郡文部  
等倍多保美  
志留波乃伊宗等  
雨閉乃宇良等  
安比豆之乃良等  
己等母加由彼牟

之の浦へ流るる船  
淵よりあつとあつと  
おどろかしつゝ古代の  
風櫃あらん



ヒジチ

妙星寺 沓部村あり日蓮宗観音山と号し宗祖日蓮上人の父貫名

名産花菖 沓部村の名物と云々花菖菖菖

腹川脊川 沓部の東あり西川妻の末より小結多し

えろ川やせ川のあはれ流るる里人の心をぞとせ 雅経

志る波磯 榛原郡横洲賀と相良の間の白羽村の駒形明神の祠と

社説云々神火を出見豊玉姫玉依姫の二座を安南帯元年十二月十五日

鎮座し中社頭燈明臺あり後海船の極し舟仲小大岩ありこれ所

傳云々社儀も東より換取賀と云ふ所あり荒海のかげ巖のそと

磯よりあつひゆてゆられ馬の香のこけはるるを救く見も里人八十五回の駒形

いひあつと其所の神と駒形明神と申を彼遠江の磯と舟人うへ向し

いひあつと其所の神と駒形明神と申を彼遠江の磯と舟人うへ向し

いひあつと其所の神と駒形明神と申を彼遠江の磯と舟人うへ向し

いひあつと其所の神と駒形明神と申を彼遠江の磯と舟人うへ向し

東海道名所圖會卷之三

